CASIO

SPEEDIA V2500

使用説明書<ソフトウェアガイド>



本書以外の使用説明書が CD-ROM に収録されていますので、併せてご利用ください。

ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』の「安全上のご注意」をお読みください。

目次

1. 印刷するための準備

2. 印刷する

3. プリンター本体の設定

4. 機器の管理

5. 付録

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書と画面で見る使用説明書（PDF）が用意されています。画面で見る使用説明書は付属の CD-ROM に収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「画面で見る使用説明書の使いかた」を参照してください。
本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。
紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じです。

♦ **かんたんセットアップ（）**
プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

♦ **クイックガイド（）**
困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

♦ **ハードウェアガイド（）**
本体各部の名称とはたらきや、オプションの接続方法、用紙に関する情報、消耗品の交換、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。

♦ **ドライバーインストール手順書（）**
プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。このマニュアルはドライバー CD に収録されています。

♦ **ソフトウェアガイド（本書）（）**
本機で使用できる機能とプリンタードライバーの設定方法を説明しています。

♦ **セキュリティーガイド（）**
管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るための方法、各管理者の設定方法などについて説明しています。セキュリティー強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。

♦ **PostScript 3 編（）**
PostScript 3エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

♦ **簡単エコ印刷ナビ　ソフトウェアマニュアル（）**
簡単エコ印刷の操作方法について説明しています。

補足

・PDF形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

使用説明書一覧表

分冊名	紙マニュアル	画面で見る使用説明書 PDF 形式のマニュアル
かんたんセットアップ	有り（ ）	有り（ ）
クイックガイド	有り（ ）	有り（ ）
ハードウェアガイド	有り（ ）	有り（ ）
ドライバーインストール手順書	なし	有り（ ）
ソフトウェアガイド	なし	有り（ ）
セキュリティーガイド	なし	有り（ ）
PostScript 3 編	なし	有り（ ）
簡単エコ印刷ナビ ソフトウェアマニュアル	なし	有り（ ）

はじめに

このたびは、SPEEDIA V2500 をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。この使用説明書は、製品を安全に正しくご使用いただくために、製品の正しい使い方・点検・不具合が起きたときの処置方法などについて説明したものです。製品を設置・ご使用になる前に必ずお読みください。ご使用中もお手元に置いてご活用ください。

本書の適用機種：SPEEDIA V2500

複製、印刷が禁止されているもの

- 次のものを本物と偽って使用する目的で複製すること、またはその本物と紛らわしいものを作成することは法律により禁じられています。
  - 紙幣、貨幣、銀行券（外国のものを含む）
  - 国債証券、地方債証券、郵便為替証明書、郵便切手、印紙
  - 株券、社債券、手形、小切手、定期券、回数券、乗車券、その他の有価証券
- 次のものを本物と偽って使用する目的で偽造することは法律により禁じられています。
  - 公務員または役所が作成した免許証、登記簿謄本その他の証明書や文書
  - 私人が作成した契約書その他権利義務や事実証明に関する文書
  - 役所または公務員の印影、署名または記号
  - 私人の印影または署名
- 他人の著作物を権利者に無断で複製、加工することは、個人的または家庭内その他これに準ずる限られた範囲においての使用を目的とする場合を除き違法となります。

  （関係法律について）
  - 刑法
  - 郵便法
  - 著作権法
  - 郵便切手類模造等取締法
  - 通貨及証券模造取締法
  - 印紙犯罪処罰法
  - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
  - 印紙等模造取締法

おことわり

本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

ご 注 意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。

(2) 製品の改良や仕様変更、および本書自身の改善のために本書の内容は予告なく変更する場合があります。
最新版の説明書が弊社ホームページからダウンロードできる場合がありますのでご活用ください。説明書の改訂に伴い、参照先のページがズレる場合があります。あらかじめご了承ください。

(3) 本書に記載されなかった最新の情報がプリンタードライバーのヘルプもしくはテキストファイル（README.TXT など）に記載されることがあります。その他最新の製品情報やプリンタードライバーのダウンロードサービスをインターネットでご提供しております。
http://casio.jp/ppr/

(4) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。

(5) 運用した結果の影響につきましては、(4) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わず取り扱われたり、当社指定のもの以外の第三者による修理、改造および、当社純正品以外のオプションまたは消耗品を使用したことなどに起因して生じた障害、およびトラブルなどにつきましては、当社は責任を負いかねますので了承ください。

(7) 「Microsoft」「Windows」は米国 Microsoft corporation の米国ならびに他の国における登録商標です。

(8) 「Adobe」は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

(9) その他の社名、商品名およびソフトウェア名は、一般に各社の商標または登録商標です。

この本の読みかた

この説明書の読みかたや、使われているマークについて説明します。

正しくお使いいただくために

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。
安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。

各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]
キーとボタンの名称を示します。

『 』
本書以外の分冊名称を示します。

本書についてのご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。
本書は、原則的にオプションを装着した状態の画面と外観イラストを使って説明しています。
本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

1. 印刷するための準備

認証機能について

認証機能を有効にして本機を運用すると、管理者による本機の管理と本機を使用するユーザーの管理ができます。
認証機能を有効にするためには、管理者の登録が必要になり、本機を使用するとき、ログインユーザー名とログインパスワードによって個人を確認するようになります。
管理者は、4 種類に分けて役割が定義されており、本機の各種の機能設定やユーザーの登録など、本機を管理します。
ユーザーは、管理者によりアクセス制限が設定され、本機の機能や各種データの使用に制限がかけられます。
本機ではユーザーは、プリンタードライバーで指定するユーザーコード認証のみご使用いただけます。
ユーザーがログインユーザー名とログインパスワードにより本体や Web Image Monitor にアクセスする仕組みはご使用いただけません。
詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

CD-ROM 収録ソフトウェア

付属の CD-ROM「ドライバー＆ユーティリティー / 使用説明書」について説明します。

1

重要

- プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、カシオ計算機のホームページからダウンロードできます。ドライバーをダウンロードするには、カシオ計算機のホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。
  http://casio.jp/ppr/

ソフトウェア一覧

CD-ROM「ドライバー＆ユーティリティー/ 使用説明書」に入っているファイルの一覧です。

ソフトウェア名／ファイル名	参照
SETUP.EXE	『ドライバーインストール手順書』「おすすめインストール」
RPCS プリンタードライバー	P.14 「RPCS プリンタードライバー」
PS3 プリンタードライバー	P.15 「PS3 プリンタードライバー」
簡単エコ印刷ナビ	P.15 「簡単エコ印刷ナビ」

RPCS プリンタードライバー

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。
RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境について説明します。

♦ ファイル格納場所

付属の CD-ROM 内の次のフォルダーに格納されています。

- Windows 32bit 版プリンタードライバー
  DRIVERS¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1
- Windows 64bit 版プリンタードライバー
  DRIVERS¥RPCS¥x64¥DISK1

♦ プリンタードライバーの動作環境

- パソコン
  対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ
- 対象 OS
  Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
- ディスプレイ解像度
  800×600 ドット以上

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

PS3 プリンタードライバー

詳細は『PostScript 3 編』を参照してください。

簡単エコ印刷ナビ

詳細は『簡単エコ印刷ナビ　ソフトウェアマニュアル』を参照してください。

ユーザー認証が設定されているとき

本機ではユーザー認証としてユーザーコード認証を使用できます。

ドライバーからユーザーコードを設定する

ユーザーコード認証が設定されているときは、プリンタードライバーのプロパティでユーザーコードを設定します。ここでは Windows XP で RPCS プリンタードライバーを使用する場合を例に説明します。詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。
2. 設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［印刷設定］をクリックします。
3. ［項目別設定］タブをクリックします。
4. 「メニュー項目：」で［印刷方法 / 認証］メニューをクリックします。
5. 「ユーザーコード：」ボックスにユーザーコードを入力します。
   ユーザーコードは半角数字を合計 8 文字まで使用することができます。
6. ［OK］をクリックします。

2. 印刷する

プリンタードライバーの設定画面を表示する

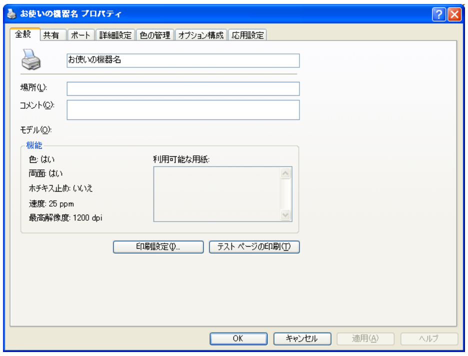
RPCS プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法について Windows XP を例に説明します。

プリンターの初期設定－プロパティを表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウから、プリンタードライバーのプロパティを表示させる方法を説明します。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- ここでの設定が、アプリケーションでの設定の初期値になります。



1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。
2. 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

補足

- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

プリンターの初期設定－印刷設定を表示する

重要

- ここでの設定が、アプリケーションでの設定の初期値になります。
- プリントサーバーから配布されたドライバーの場合は、プリントサーバーで設定された［標準の設定］の内容が初期値として表示されます。



1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。
2. 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［印刷設定］をクリックします。

補足

- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

アプリケーションから印刷設定を表示する

重要

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。



［プリンタと FAX］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターの印刷設定をアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 ［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。

2 本機を選択し、［詳細設定］をクリックします。

補足

- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションから表示した印刷設定は、一般ユーザーでも変更することができます。

かんたん設定を使う

「よく使う印刷」の機能の一部は、[かんたん設定] タブの「かんたん設定一覧：」にあらかじめ登録されています。メニューから設定名を選択するだけで、両面印刷や集約印刷などを指定することができます。
「かんたん設定」を使用するには、「かんたん設定一覧：」から、適用したい設定名をクリックします。



設定名を選択するだけで登録されている設定内容が反映されるため、印刷するときに何箇所も設定を変更したり、誤って設定して無駄な印刷をしてしまうミスを防ぐことができます。
「かんたん設定」は任意に追加、変更、削除することができます。また、複数のメンバーで同じかんたん設定を共有して使用することもできます。プリンタードライバーに関する特別な知識がなくても、登録した「かんたん設定」を使うだけで、さまざまな機能を活用することができます。
「かんたん設定」を登録する場合は、以下の手順で操作してください。

1 **アプリケーションから印刷設定を開きます。**

印刷設定を開く方法については、P.19「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2 **印刷の設定を必要に応じて指定します。**

3 **[かんたん設定] タブが選択されていることを確認します。選択されていない場合は [かんたん設定] タブをクリックしてください。**

印刷の設定を指定した場合、「かんたん設定一覧：」に [未登録] のアイコンが表示されます。

4 **[未登録] のアイコンが選択されていることを確認し、[かんたん設定に登録 ...] をクリックします。**

設定の名前とコメントを入力して [OK] をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

5 **[OK] をクリックします。**

補足

- 「かんたん設定」の変更や削除について、詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

よく使う印刷

通常印刷、両面印刷、製本印刷、集約印刷のしかたについて説明します。
ここで説明するそれぞれの機能は、「かんたん設定」と呼ばれる 1 つの設定にあらかじめ登録されています。「かんたん設定」の設定値を変更するだけで、これらの機能を適用することもできます。

補足

- 「かんたん設定」については、P.20 「かんたん設定を使う」を参照してください。

2

通常印刷する

重要

- 印刷する前に、本機に取り付けたオプションとセットした用紙の情報を必ず設定してください。

1 **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**

印刷設定を開く方法については、P.19 「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2 **[かんたん設定] タブが選択されていることを確認します。選択されていない場合は [かんたん設定] タブをクリックしてください。**



3 **「かんたん設定一覧：」から [標準設定] を選択します。**

複数の部数を印刷する場合は、「部数」ボックスに部数を入力します。

4 **「原稿サイズ：」プルダウンメニューから印刷する文書のサイズを選択します。**

5 **「原稿方向：」プルダウンメニューから文書の印刷方向を選択します。**

6 「給紙トレイ：」プルダウンメニューから用紙がセットされている給紙トレイを選択します。

［自動トレイ選択］を選択した場合は、用紙サイズと用紙種類に応じて給紙トレイが自動的に選択されます。

7 「用紙種類：」プルダウンメニューから給紙トレイにセットされている用紙の種類を選択します。

8 「カラー／白黒：」プルダウンメニューから印刷の色を選択します。

9 「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、［かんたん設定に登録 ...］をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して［OK］をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

10 ［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。

11 アプリケーションから印刷の指示をします。

補足

- 給紙トレイにセットされている用紙の種類は、本機の画面で確認できます。プリンタードライバーで選択できる用紙種類の設定値と、本機の画面での用紙種類表示は異なる場合があります。プリンタードライバーで用紙の種類を選択するときは、どのトレイにどの種類の用紙がセットされているかも確認してください。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は、P.52 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。
- 「カラー／白黒：」で［カラー］を選択している場合は、どなたにでも見やすく配慮した色で印刷することができます。この機能を使うには、［項目別設定］タブの「メニュー項目：」で［印刷品質］メニューをクリックし、「カラーユニバーサルデザイン対応印刷：」で［する］を選択します。

両面／製本印刷する

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

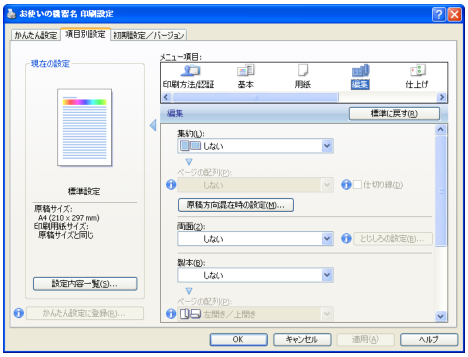
印刷設定を開く方法については、P.19 「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2 あらかじめ登録されている両面印刷の設定を使用する場合は、［かんたん設定］タブをクリックし、「かんたん設定一覧：」から［両面］をクリックします。

あらかじめ登録されている両面印刷の設定を変更したくない場合は、必要に応じて用紙サイズや給紙トレイなどを設定し、手順 8 へ進んでください。

3 ［項目別設定］タブをクリックします。

4 「メニュー項目：」で［編集］メニューをクリックします。



5 両面印刷または製本印刷を設定します。

- 両面印刷を設定する場合は、「両面：」プルダウンメニューから用紙のひらきかたを選択します。詳細は P.25 「両面印刷の種類」を参照してください。
  両面印刷時にとじしろを付ける場合は、［とじしろの設定 ...］をクリックして、とじしろの幅を設定できます。
- 製本印刷を設定する場合は、「製本：」プルダウンメニューから用紙のひらきかたを選択した後に、「ページの配列：」プルダウンメニューからページの並べかたを選択します。詳細は P.26 「製本印刷の種類」を参照してください。

6 その他の印刷の設定を必要に応じて指定します。

7 「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、［かんたん設定に登録 ...］をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して［OK］をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

8 ［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。

9 アプリケーションから印刷の指示をします。

補足

- 1 つの文書内に原稿サイズの異なるページがある場合、そのページの前で改ページすることがあります。

両面印刷可能な用紙サイズ、用紙種類

◆ 両面印刷可能な用紙サイズ

- A4
- B5
- $8^{1}/_{2}$×14
- $8^{1}/_{2}$×11
- 不定形サイズ

◆ 両面印刷可能な用紙種類

- 普通紙
- 薄紙
- 中厚口
- コート紙（グロス加工）
- コート紙（マット加工）
- 特殊紙 1
- 特殊紙 2
- 色紙
- 印刷済み紙
- 再生紙

補足

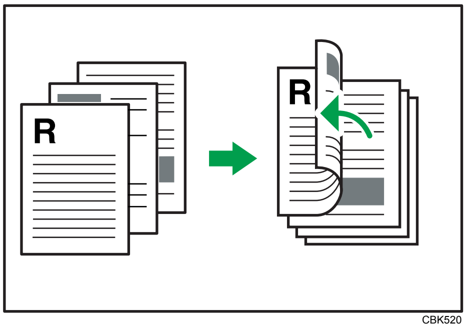
- トレイ 1 は幅約 148〜216 mm、長さ約 240〜356 mm の不定形サイズに対応しています。トレイ 1 に不定形サイズの用紙をセットするときは、必ず操作部およびプリンタードライバーの両方で設定してください。
- 手差しトレイは幅約 90〜216 mm、長さ約 240〜356 mm の不定形サイズに対応しています。手差しトレイに不定形サイズの用紙をセットするときは、必ず操作部またはプリンタードライバーで設定してください。
- $8^{1}/_{2}$×14または長さ 297 mm を越える不定形サイズを両面印刷する場合は、通常よりも印刷速度が遅くなります。

両面印刷の種類

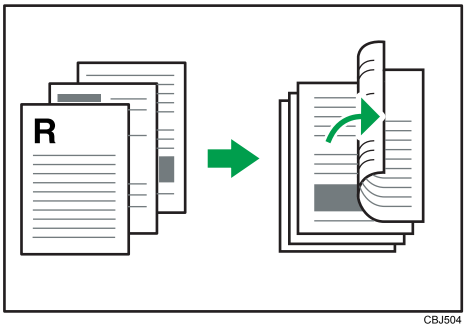
両面印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。
用紙の左端、右端または上端でとじるひらきかたが設定できます。

♦ **両面：**

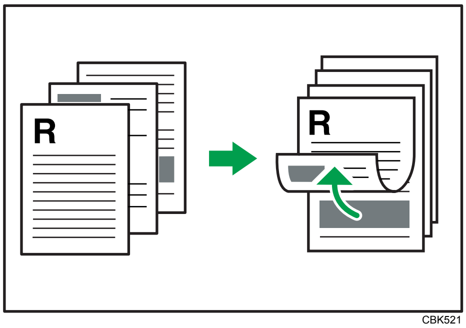
- 左へひらく



- 右へひらく



- 上へひらく

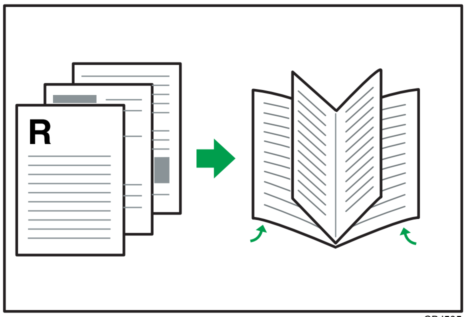


製本印刷の種類

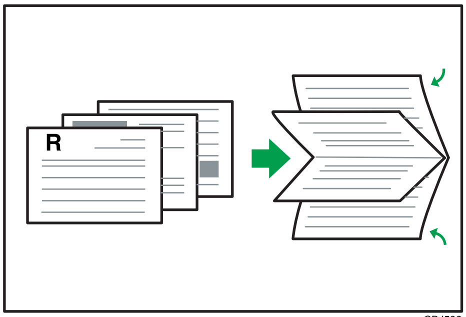
製本印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。
用紙の中央でとじるひらきかたが設定できます。

◆ **製本：**

・週刊誌

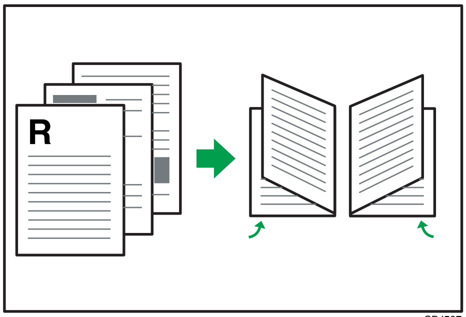


CBJ505

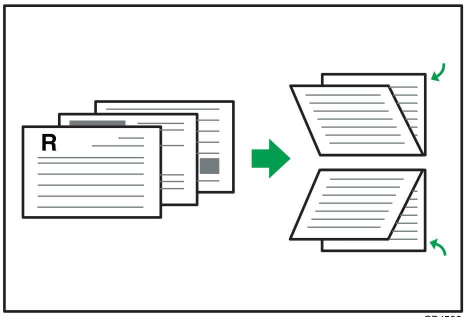


CBJ506

・ミニ本



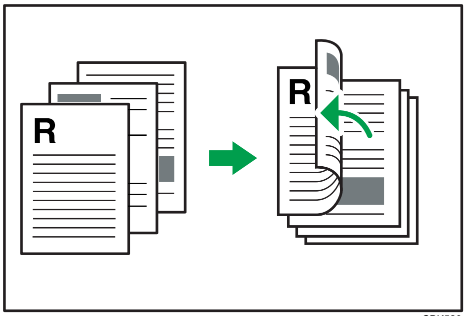
CBJ507



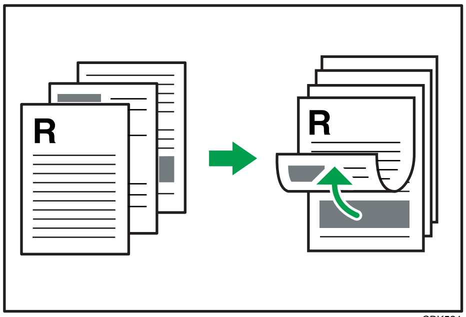
CBJ508

◆ ページの配列：

・左開き／上開き

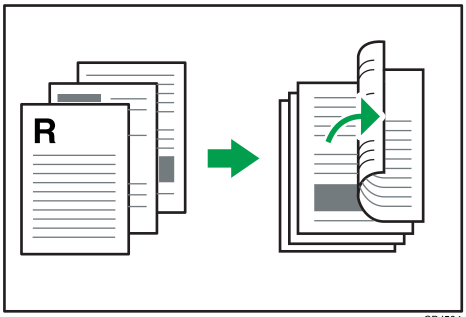


CBK520

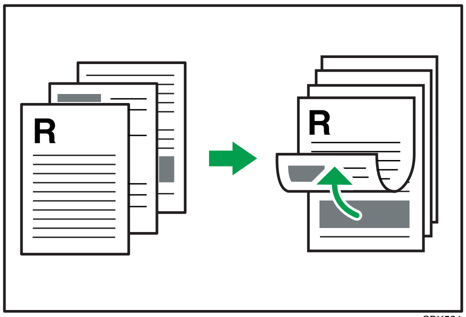


CBK521

・右開き／上開き



CBJ504



CBK521

2

複数のページを集約して印刷する

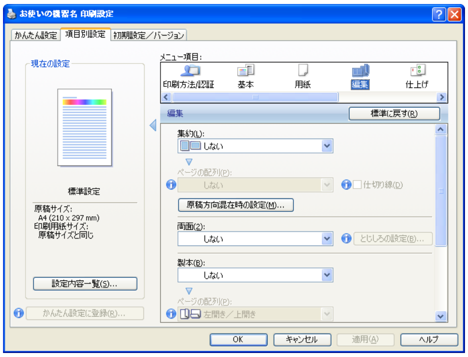
集約を設定すると、複数のページを縮小して 1 ページにまとめて印刷することができます。

1. **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。**
   印刷設定を開く方法については、P.19 「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2. **あらかじめ登録されている集約印刷の設定を使用する場合は、[かんたん設定] タブをクリックし、「かんたん設定一覧 :」から [集約] をクリックします。**
   あらかじめ登録されている集約印刷の設定を変更したくない場合は、必要に応じて用紙サイズや給紙トレイなどを設定し、手順 8 へ進んでください。

3. **[項目別設定] タブをクリックします。**

4. **「メニュー項目 :」で [編集] メニューをクリックします。**



5. **「集約 :」プルダウンメニューから集約の種類を選択した後に、「ページの配列 :」プルダウンメニューからページの並べかたを選択します。詳細は P.29 「集約印刷の種類」を参照してください。**
   仕切り線が必要な場合は、「仕切り線」チェックボックスにチェックを入れてください。
   原稿の方向が混在する場合は、[原稿方向混在時の設定 ...] をクリックし、「印刷結果 :」プルダウンメニューから処理のしかたを選択してください。

6. **その他の印刷の設定を必要に応じて指定します。**

7. **「かんたん設定一覧 :」に現在の設定を保存する場合は、[かんたん設定に登録 ...] をクリックします。**
   設定の名前とコメントを入力して [OK] をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧 :」に表示されます。

8. **[OK] をクリックし、印刷設定を閉じます。**

9. **アプリケーションから印刷の指示をします。**

補足

- 1つの文書内に原稿方向の異なるページがある場合は、そのページの前で改ページします。
- 同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 縦横が混在する原稿を集約する場合など、詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

集約印刷の種類

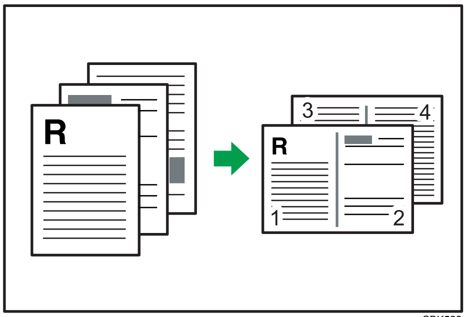
集約印刷で1ページにまとめることができるのは、2ページ、4ページ、9ページ、16ページです。

2ページを1ページにまとめる場合は、2つのパターンからページの並べかたを選択できます。4ページ以上を1ページにまとめる場合は、4つのパターンからページの並べかたを選択できます。

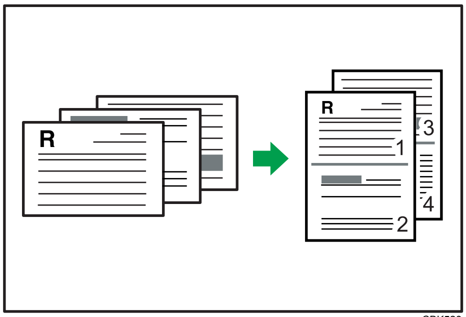
ここでは2ページを1ページにまとめる場合と4ページを1ページにまとめる場合を例に説明します。

♦ 2ページを1ページに集約

- 左から右／上から下

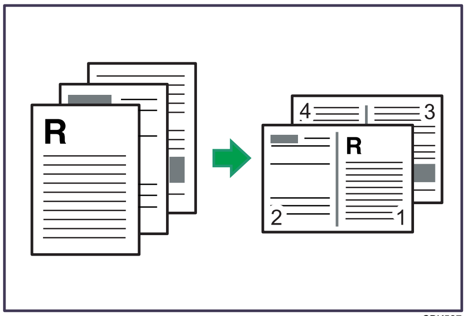


CBK522

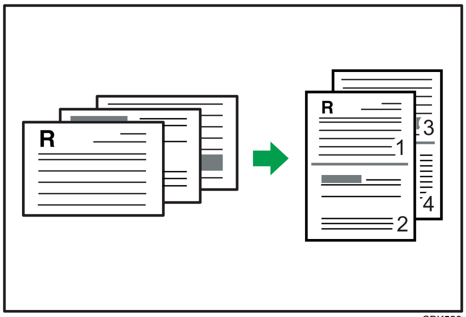


CBK528

- 右から左／上から下



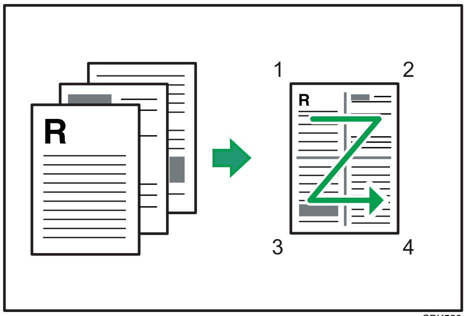
CBK527



CBK528

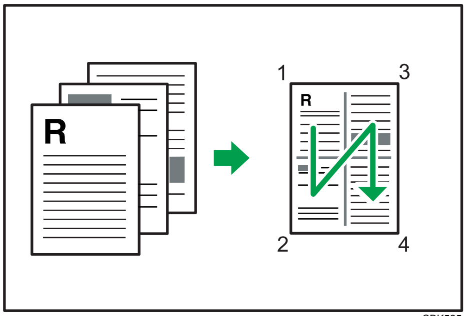
♦ 4 ページを 1 ページに集約

- 左上→右上→左下→右下



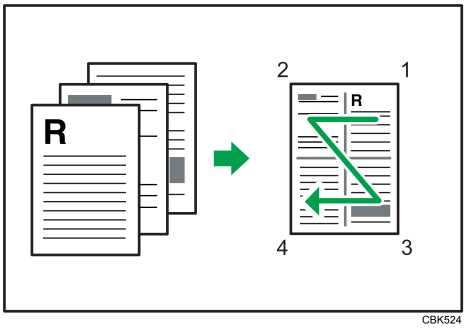
CBK523

- 左上→左下→右上→右下

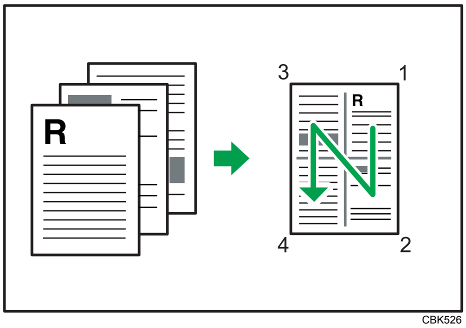


CBK525

- 右上→左上→右下→左下



- 右上→右下→左上→左下



便利な機能

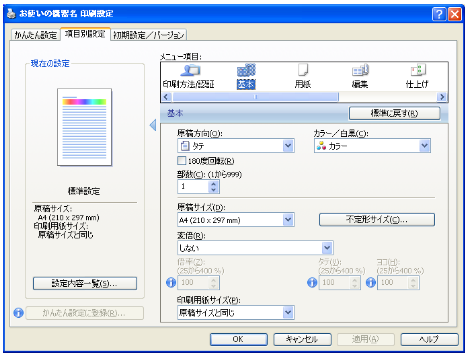
表紙用の用紙への印刷、合紙の挿入、またはソートなどの、便利な印刷機能について説明します。
［かんたん設定］タブで使用する機能のほかにも、［項目別設定］タブの「メニュー項目：」から印刷に関する機能を設定することができます。

プリンタードライバーのおもなメニューについて

「メニュー項目：」の［基本］、［用紙］、［仕上げ］、［効果］メニューから、便利な印刷機能を設定することができます。

♦ ［基本］メニュー

原稿方向や原稿サイズ、印刷用紙サイズに関する設定のほかに、印刷の色を設定することができます。



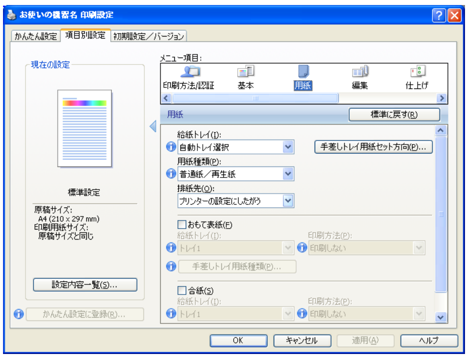
- 原稿サイズ

  印刷ジョブで指定した用紙が本機の給紙トレイにセットされていない場合に、手差しトレイを使って印刷を継続することができます。

  この機能の説明については P.34 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」を参照してください。

♦ ［用紙］メニュー

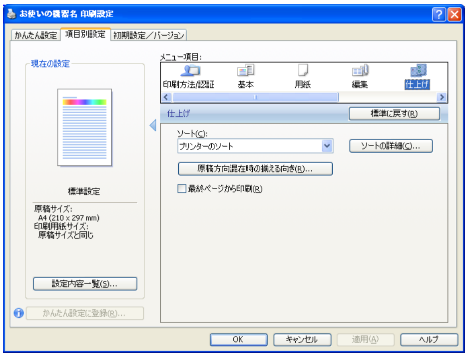
給紙トレイや用紙種類、排紙先に関する設定のほかに、表紙や合紙について設定することができます。



- 用紙種類
  印刷ジョブで指定した用紙が本機の給紙トレイにセットされていない場合に、手差しトレイを使って印刷を継続することができます。
  この機能の説明については P.34 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」を参照してください。
- おもて表紙
  表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。
  表紙には両面印刷することもできます。
  この機能の説明については P.36 「表紙を印刷する」を参照してください。
- 合紙
  ページごとに合紙を挿入します。
  この機能の説明については P.37 「合紙を挿入する」を参照してください。

♦ [仕上げ] メニュー

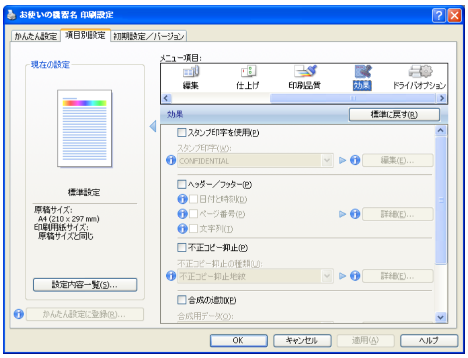
ソートついて設定することができます。



- ソート
  プリンターのソート機能とアプリケーションのソート機能のどちらを使用するかを選択します。
  この機能の説明については P.41 「部単位で印刷する（ソート）」を参照してください。

♦ [効果] メニュー

スタンプ印字やイメージスタンプ、不正コピー抑止印刷などを設定することができます。



- スタンプ印字を使用
  作成した文書に文字を重ねて印刷する機能です。
  この機能の説明については P.38 「原稿に文字やイメージをスタンプする」を参照してください。

・イメージスタンプの追加
作成した文書にイメージデータを重ねて印刷する機能です。
この機能の説明についてはP.38 「原稿に文字やイメージをスタンプする」を参照して
ください。
・不正コピー抑止
機密文書などに不正コピーを抑止するための抑止文字列やマスクパターンを埋め込んで印刷する機能です。
この機能の説明についてはP.44 「文書の複製を抑止する」を参照してください。

補足

・[項目別設定]タブの「メニュー項目：」から設定できるその他のメニュー項目については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する

本機の操作部を使って、[印刷設定]の[トレイ設定選択]で、[手差しトレイ]を[全用紙サイズ・用紙種類許可]または[全不定形サイズ・用紙種類許可]に設定しておくと、本機の用紙設定をあらかじめ変更、確認することなく、指定した用紙に印刷することができます。
プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙サイズ、用紙種類が、本機のどのトレイとも一致しない場合、指定した用紙サイズ、用紙種類の設定を手差しトレイに適用し、手差しトレイを使って、そのまま印刷を継続することができます。異なる用紙を頻繁に使用する場合や、普段は使用しない用紙に印刷する場合などに、操作部から用紙の設定を変更しておく必要がありません。

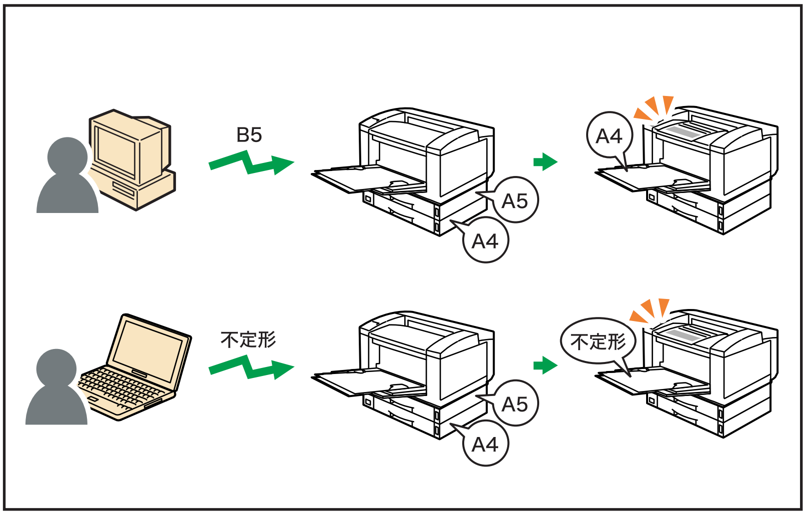
重要

・すべての用紙サイズで手差しトレイからの印刷継続を許可する場合は、[印刷設定] の[トレイ設定選択]で、[手差しトレイ]を[全用紙サイズ・用紙種類許可]に設定してください。不定形サイズの用紙のみを印刷継続の対象とする場合は、[印刷設定]の[トレイ設定選択]で、[手差しトレイ]を[全不定形サイズ・用紙種類許可]に設定してください。各設定項目については、P.83 「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。
・プリンタードライバーの印刷設定画面にある[項目別設定]タブの「メニュー項目：」で[用紙]メニューをクリックし、「給紙トレイ：」で[自動トレイ選択]を選択してください。自動トレイ選択でジョブを送ると、[用紙設定]の[優先給紙トレイ]で設定したトレイから順に、ジョブで指定した用紙設定に一致するトレイを検出します。[優先給紙トレイ]を[手差しトレイ]に設定すると、手差しトレイに用紙がセットされている場合は、常に手差しトレイから給紙、印刷します。プリンタードライバーの設定については、P.32 「プリンタードライバーのおもなメニューについて」を参照してください。[優先給紙トレイ]の設定については、P.65 「用紙設定メニューの設定項目」を参照してください。

手差しトレイを[全用紙サイズ・用紙種類許可]または[全不定形サイズ・用紙種類許可]に設定しておくと、下記の例のように給紙、印刷します。

◆［全用紙サイズ・用紙種類許可］の場合

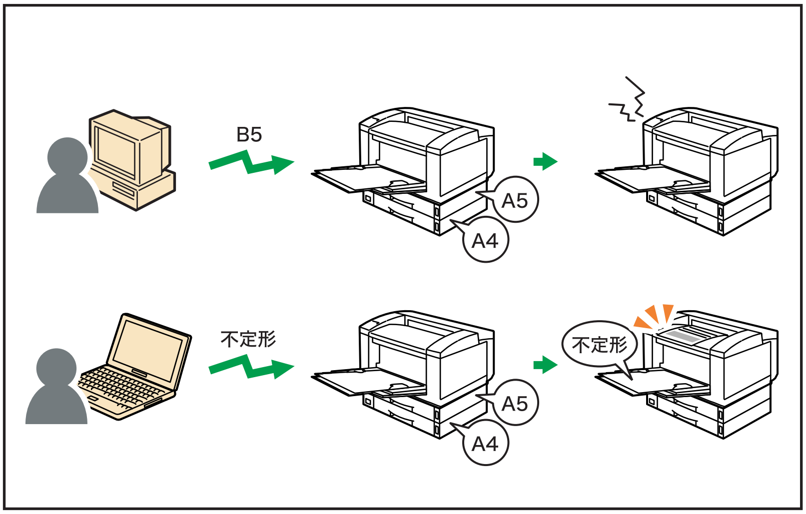
ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定を手差しトレイに適用して印刷できます。



CBJ509

◆［全不定形サイズ・用紙種類許可］の場合

ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷できます。



CBJ510

補足

- 印刷速度は通常の印刷に比べて遅くなります。
- ジョブを受信したとき、手差しトレイに用紙がセットされていない場合は、用紙の補給を促すメッセージが操作部に表示されます。表示されている用紙サイズ、用紙種類を確認し、印刷したい面を下にして用紙をセットしてください。
- 1 つの文書に用紙サイズの異なるページが混在している場合で、本体トレイに一致する用紙がない場合は、すべてのページを手差しトレイから印刷します。本体トレイに一致するページがある場合は、一致するページのみ本体トレイから印刷します。

・ジョブで指定した用紙サイズと手差しトレイから給紙された用紙サイズが異なるときは、操作部に警告画面が表示されます。対処方法については P.55 「手差しトレイからの印刷を継続する」を参照してください。

表紙を印刷する

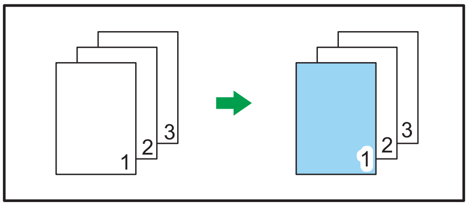
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

重要

- ソートの設定が必要です。
- 表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。

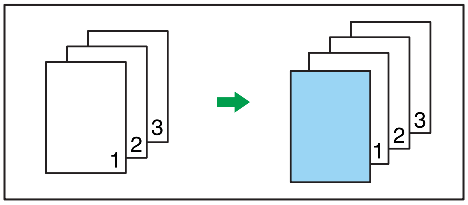
♦ 片面印刷の場合

- 表紙用の用紙に印刷するとき



CBK512

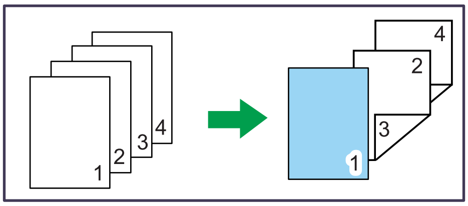
- 表紙用の用紙に印刷しないとき



CBK537

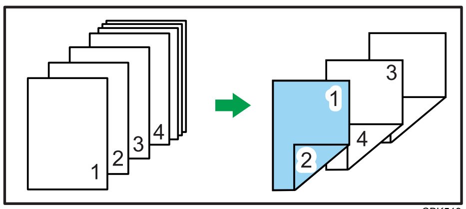
♦ 両面印刷の場合

- 表紙用の用紙に片面印刷するとき



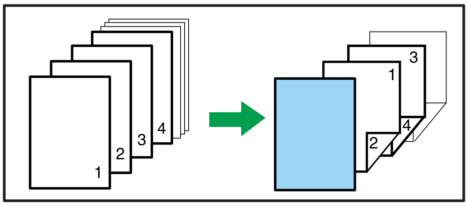
CBK529

- 表紙用の用紙に両面印刷するとき



CBK513

・表紙用の用紙に印刷しないとき



CBK538

2

補足

・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

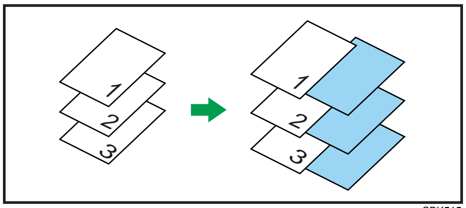
合紙を挿入する

ページごとに合紙を挿入します。

重要

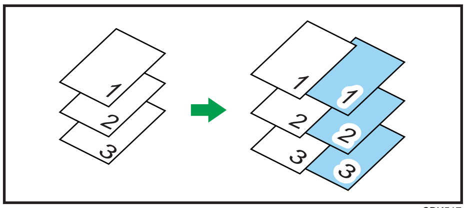
・両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。

♦ 印刷しない



CBK515

♦ 合紙に印刷



CBK517

補足

・合紙用の用紙は、印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。

原稿に文字やイメージをスタンプする

スタンプを設定すると、作成した文書に文字やイメージデータを重ねて印刷することができます。
スタンプには、文字データを使った「スタンプ印字」と、ビットマップファイル（.bmp）を使った「イメージスタンプ」があります。一度に指定できるスタンプはどちらかのみです。

2

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.19「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2 ［項目別設定］タブをクリックします。

3 「メニュー項目：」で［効果］メニューをクリックします。

4 スタンプ印字またはイメージスタンプを設定します。

- スタンプ印字を設定する場合は、「スタンプ印字を使用」チェックボックスにチェックを入れ、「スタンプ印字：」プルダウンメニューからスタンプ印字の種類を選択します。詳細はP.39「スタンプ印字の種類」を参照してください。
  ［編集 ...］をクリックして、スタンプ印字の新規作成や編集ができます。詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- イメージスタンプを設定する場合は、「イメージスタンプの追加」チェックボックスにチェックを入れ、［編集 ...］をクリックします。イメージスタンプの編集方法について、詳細はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

5 その他の印刷の設定を必要に応じて指定します。

6 「かんたん設定一覧：」に現在の設定を保存する場合は、［かんたん設定に登録 ...］をクリックします。

設定の名前とコメントを入力して［OK］をクリックすると、登録した設定のアイコンが「かんたん設定一覧：」に表示されます。

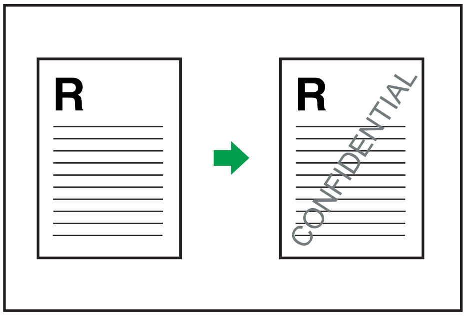
7 ［OK］をクリックし、印刷設定を閉じます。

8 アプリケーションから印刷の指示をします。

スタンプ印字の種類

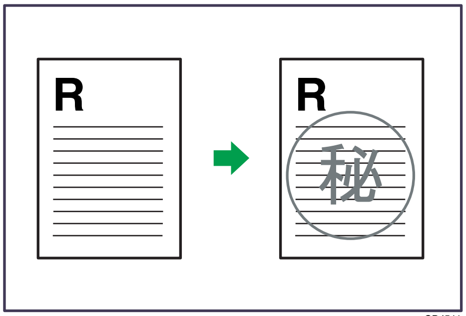
本機のプリンタードライバーにはいくつかのスタンプ印字があらかじめ登録されています。利用できるスタンプ印字の種類は次のとおりです。

- CONFIDENTIAL



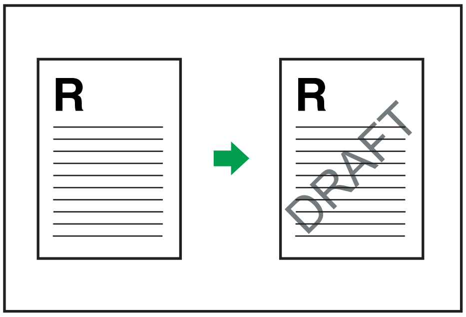
CBK503

- マル秘



CBJ511

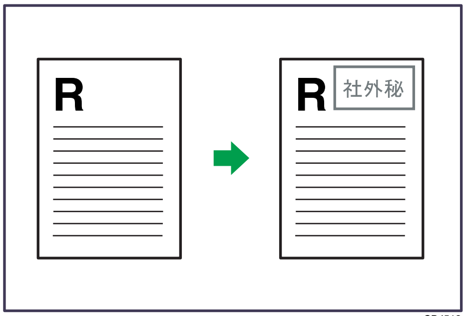
- DRAFT



CBK504

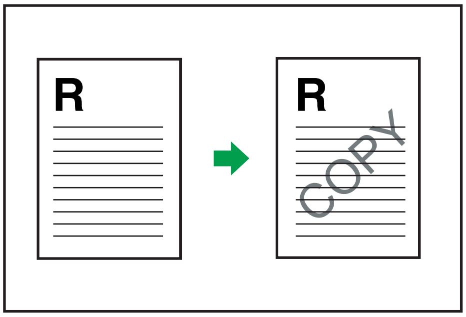
2

- 社外秘



CBJ512

- COPY



CBK501

部単位で印刷する（ソート）

会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

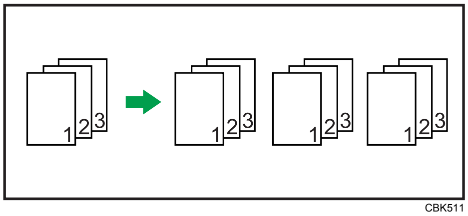
重要

- ソート可能なページ数は、RAM による場合は最大 150 ページです。
- 1 部目でエラースキップや強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。

♦ ソートの種類について

- ソート

  1 部ずつそろえて印刷します。



補足

- ソート機能を使うときには、プリンタードライバーの印刷設定画面にある［項目別設定］タブの「メニュー項目：」で［仕上げ］メニューをクリックし、「ソート：」で［プリンターのソート］を選択してください。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。
PDF ファイルを直接印刷するには、コマンドを使って印刷する方法があります。

重要

2

- この機能は、オプションの拡張 PS3 カードを装着しているときに使用できます。
- Adobe 純正の PDF のみ可能です。
- 対応している PDF ファイルのバージョンは 1.7 以前です。
- PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter や、8 コンポーネントを超える DeviceN のカラースペースには対応していません。
- PDF バージョン 1.6 の固有機能であるウォーターマーク注釈や、バージョン 1.6 で機能拡張されたオプショナルコンテンツには対応していません。
- PDF バージョン 1.7 の固有機能である AcroForm を使用している PDF ファイルには対応していません。
- 透明機能を含むデータを印刷する場合、印刷するデータによっては印刷できないことがあります。この場合はプリンタードライバーを使用して印刷してください。
- PDF ファイルのサイズが大きい場合は、直接印刷できないことがあります。

補足

- 不定形サイズの用紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

コマンドを使用して印刷する

PDF ファイルを本機に送信して直接印刷するには、lpr、rcp、ftp および sftp コマンドを使用します。

PDF ファイルを送信する

lpr コマンドを使用して PDF ファイルを送信する場合の例は以下のとおりです。
lpr コマンドでは、プリンターの IP アドレスのほか、PDF ファイル名を指定します。書式は次のとおりです。

`c:> lpr -S プリンターの IP アドレス（またはホスト名） -P プリンター名 ¥ パス名 ¥ ファイル名`

PDF パスワードを設定する

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷する方法について説明します。
パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷するには、操作部または Web Image Monitor のいずれかでパスワードを指定します。

♦ 操作部を使う

操作部を使用して PDF パスワードを設定するには、[印刷設定] の [PDF 設定] で「PDF パスワード変更」を設定します。

♦ Web Image Monitor を使う

Web Image Monitor を使用して PDF パスワードを設定するには、[設定] の [PDF 一時パスワード] を設定します。

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の文字列とマスクパターンを埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷には、「不正コピー抑止地紋」と「不正コピーガード」があります。

重要

- 不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。

2

■不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

印刷設定を開く方法については、P.19「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。

2 [項目別設定] タブをクリックします。

3 「メニュー項目：」で [効果] メニューをクリックします。

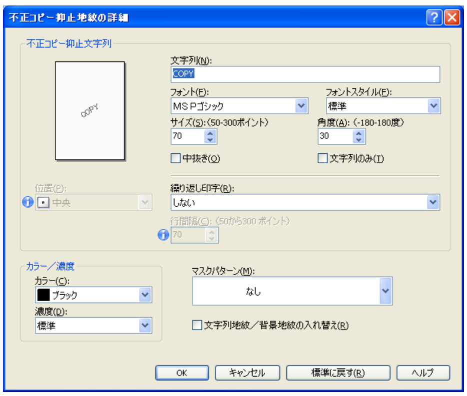
4 「不正コピー抑止」チェックボックスにチェックを入れます。

5 「不正コピー抑止の種類：」プルダウンメニューから [不正コピー抑止地紋] または [不正コピーガード] を選択し、[詳細 ...] をクリックします。

不正コピー抑止地紋

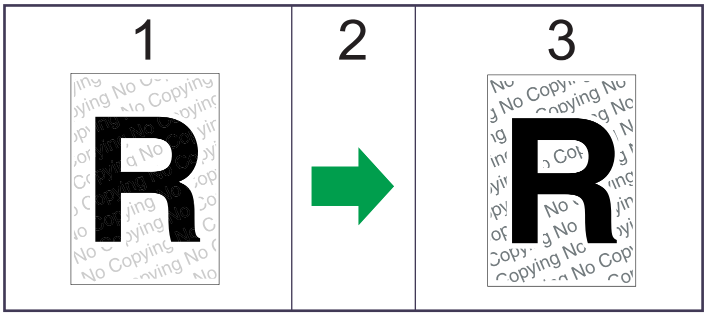
プリンタードライバーで不正コピー抑止文字列とマスクパターンを設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

♦ 必要な設定項目



- 「文字列：」に不正コピー抑止文字列を入力し、「マスクパターン：」プルダウンメニューから使用するマスクパターンを選択します。

♦「不正コピー抑止地紋」を設定した文書を印刷すると



CBJ515

1 不正コピー抑止地紋を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止文字列およびマスクパターンが表示されます。

2 複写機／複合機を使って、コピーを行います。

3 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

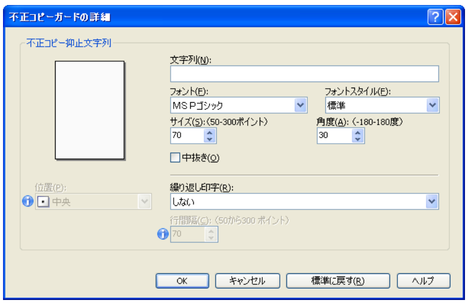
補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- 地紋効果は、コピー、スキャン結果をすべて保証しているものではありません。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 不正コピー抑止印刷のための文字列地紋を効果的に浮き上がらせるために、文字列サイズは 70〜80pt（最低 50pt）、文字列角度は 30〜 40 度の範囲内で設定してください。
- 「不正コピー抑止地紋の詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

不正コピーガード

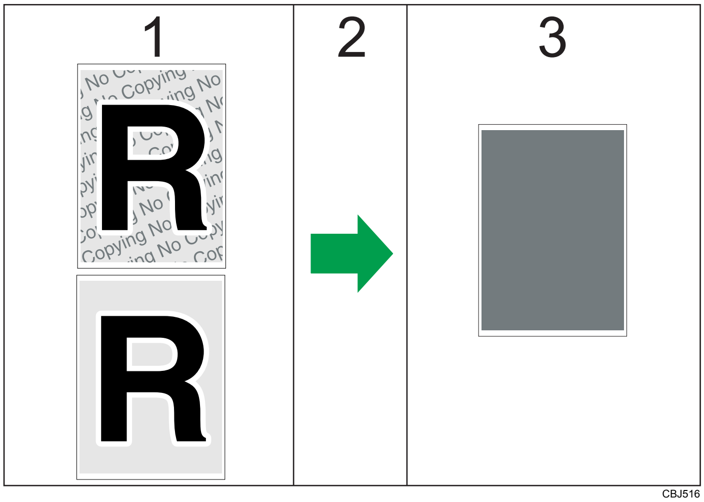
プリンタードライバーで不正コピーガード用の不正コピー抑止文字列を埋め込んで、印刷することができます。

♦ 必要な設定項目



- 「文字列：」に不正コピー抑止文字列を入力します。

♦ 不正コピーガードを設定した文書を印刷すると



1. 不正コピーガードを設定すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が埋め込まれて印刷されます。
2. 不正コピーガードモジュールが搭載された複写機／複合機を使って、コピーを行います。
3. 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70% 以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピーガードの詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 不正コピーガードモジュールは複合機／複写機用のオプションです。本機には装着できません。

おことわり

1) 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガードが、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガードが有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
2) 不正コピー抑止地紋および不正コピーガードを使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

分類コードについて

この機能はご使用いただけません。

仮想プリンターを使う

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。

仮想プリンターを追加する

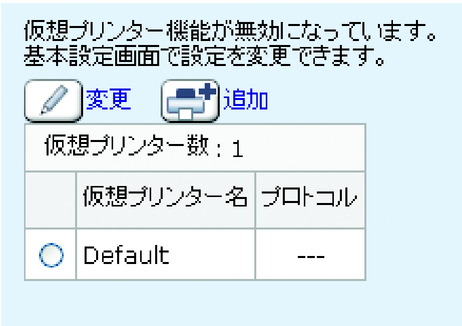
重要

- 仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。
- 仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、［TCP/IP（指定なし・通常）］、［TCP/IP（指定なし・優先）］、［TCP/IP（DIPRINT）］、［TCP/IP（RHPP）］、［AppleTalk］です。

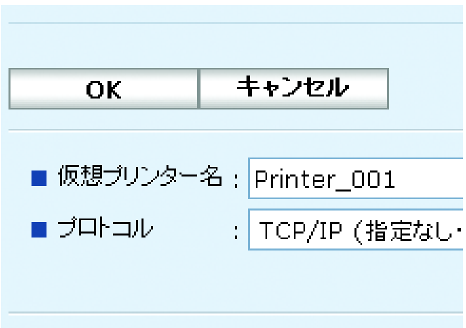
1 Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3［追加］をクリックします。



4［仮想プリンター名］に任意のプリンター名を入力し、［プロトコル］を選択してください。

5 ［OK］をクリックします。

6 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

補足

- ［AppleTalk］は、拡張 PS3 カード装着時に表示されます。
- ［プロトコル］で［AppleTalk］を指定した場合、仮想プリンターの名前を任意に設定することはできません。
- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、追加ボタンは表示されません。

2

仮想プリンターの設定を変更する

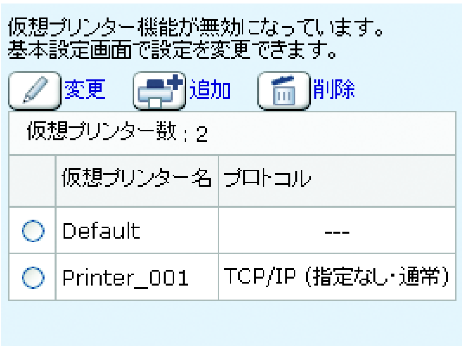
重要

- 仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。

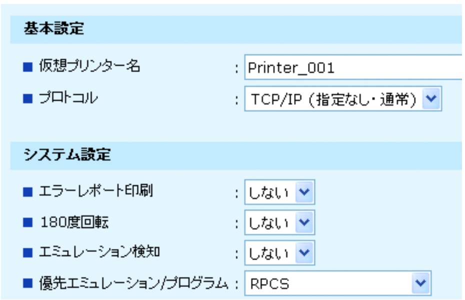
1 Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.108「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3 変更したい仮想プリンターを選択し、［変更］をクリックします。



4 各項目の設定内容を任意に変更し、［OK］をクリックします。

5 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

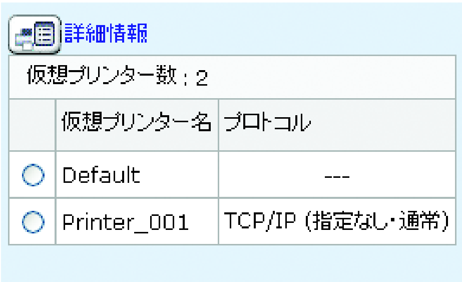
補足

- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

仮想プリンターの設定内容を確認する

1 Web Image Monitor を起動します。

2 メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



詳細情報

仮想プリンター数：2

	仮想プリンター名	プロトコル
○	Default	---
○	Printer_001	TCP/IP（指定なし・通常）

3 確認したい仮想プリンターを選択し、［詳細情報］をクリックします。

補足

- 管理者モードでログインしている場合、［詳細情報］は表示されません。［変更］で現在の設定内容を確認してください。
- ゲストモードの場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、P.51「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

仮想プリンターを削除する

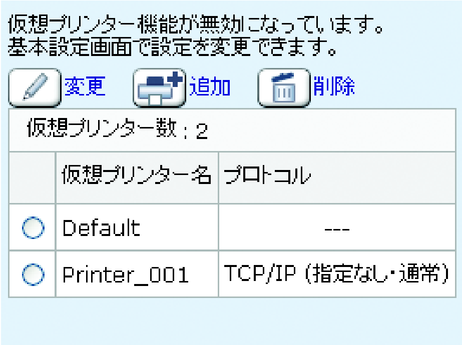
重要

- 仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。

1 Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.108「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［仮想プリンター設定］をクリックします。



3 削除したい仮想プリンターを選択し、［削除］をクリックします。

4 ［OK］をクリックします。

5 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、［削除］ボタンは表示されません。

仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに［仮想プリンター名］を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを［有効］に設定してください。

重要

- 仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。

1 Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。

ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 メニューエリアの［設定］をクリックし、「プリンター」カテゴリーの中の［基本設定］をクリックします。

3 ［仮想プリンター］の項目から［有効］を選択し、［OK］をクリックします。

4 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

5 パソコンから印刷の指示をします。

lpr コマンドを使用して印刷する場合の例は以下のとおりです。

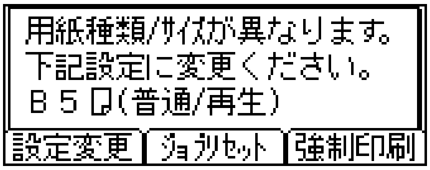
c:> lpr -S プリンターの IP アドレス（またはホスト名） -P 仮想プリンター名 ¥ パス名 ¥ ファイル名

用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき

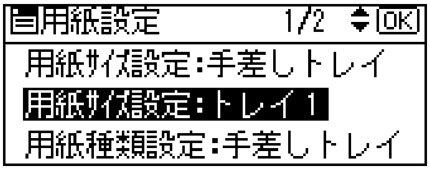
印刷時に指定した用紙サイズや用紙種類と給紙トレイにセットされた用紙が異なる場合、操作部に警告画面が表示されます。

トレイの用紙設定を変更して印刷する

1. 警告画面で［設定変更］を押します。

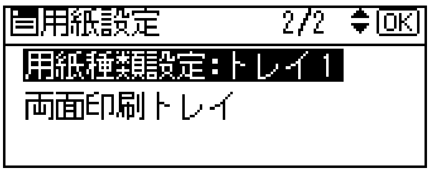


2. ［▼］［▲］キーを押して用紙サイズを変更したいトレイを選択し、［OK］キーを押します。



3. ［▼］［▲］キーを押して使用する用紙サイズを選択し、［OK］キーを押します。

4. ［▼］［▲］キーを押して用紙種類を変更したいトレイを選択し、［OK］キーを押します。

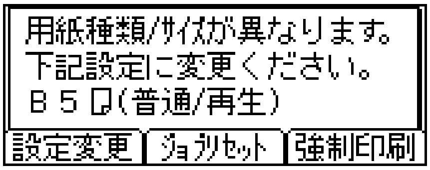


5. ［▼］［▲］キーを押して使用する用紙種類を選択し、［OK］キーを押します。

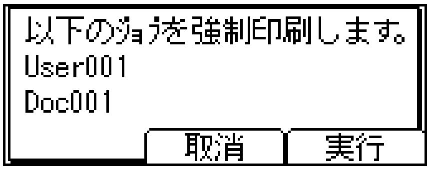
6. ［キャンセル］キーを押します。

強制印刷する

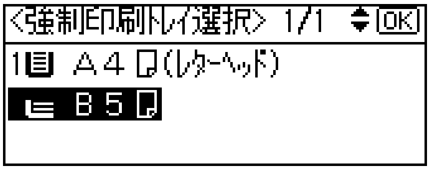
1 警告画面で［強制印刷］を押します。



2 ［実行］を押します。



3 ［▼］［▲］キーを押して使用するトレイを選択し、［OK］キーを押します。



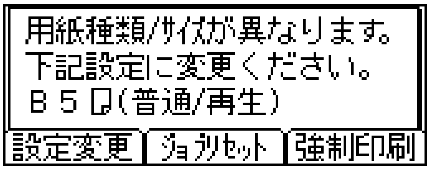
用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

補足

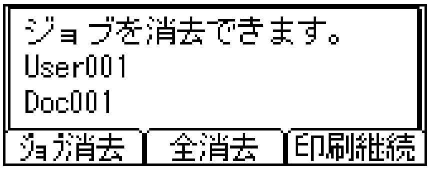
- 用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。
- ソート印刷の 1 部目で強制印刷を実行した場合、1 部のみ指定した給紙トレイから印刷し、ソート印刷は解除されます。
- ソート印刷の 2 部目以降で強制印刷を実行した場合、実行中の部のみ印刷を行いま す。

印刷を中止する

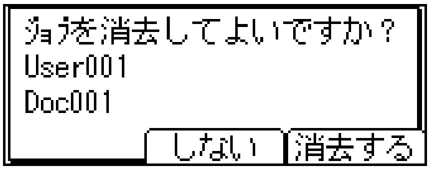
1 警告画面で［ジョブリセット］を押します。



2 現在のジョブを中止する場合は、［ジョブ消去］を押します。すべてのジョブを中止する場合は、［全消去］を押します。



3 ［消去する］を押します。

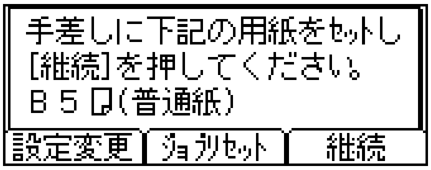


補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切替時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］を押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

手差しトレイからの印刷を継続する

手差しトレイが［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定されている場合、ジョブで指定した用紙サイズと異なる用紙が給紙されたときには警告画面が表示されます。



この画面が表示されたときは、セットした用紙のサイズを確認してください。

1 **画面に表示されている用紙を手差しトレイにセットします。**

2 **［継続］を押します。**

エラーが発生したページから印刷が再開されます。

補足

- ［設定変更］から用紙サイズや用紙種類を変更しても、実行中のジョブに対しては適用されません。用紙設定を変更する場合は、ジョブリセットしてから、再度、印刷を実行してください。
- ［全用紙サイズ・用紙種類許可］または［全不定形サイズ・用紙種類許可］については、P.34 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」およびP.83 「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機またはパソコンから行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なります。

2

中止したいデータが印刷されていない場合

パソコンから操作します。

1. **Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。**
   印刷を中止する文書の状態を確認します。
2. **印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。**
3. **［ドキュメント］メニューの［キャンセル］をクリックします。**
4. **［はい］をクリックします。**

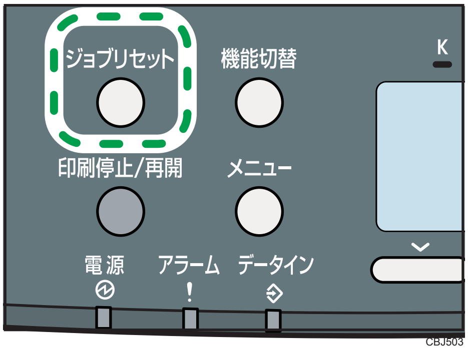
補足

- ［プリンタ］メニューの［すべてのドキュメントの取り消し］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、［すべてのドキュメントの取り消し］を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

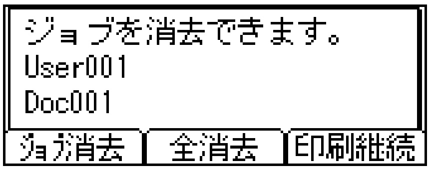
中止したいデータが印刷されている場合

本機の操作部から操作します。

1 ［ジョブリセット］キーを押します。



2 ［ジョブ消去］を押します。



3 ［消去する］を押します。



補足

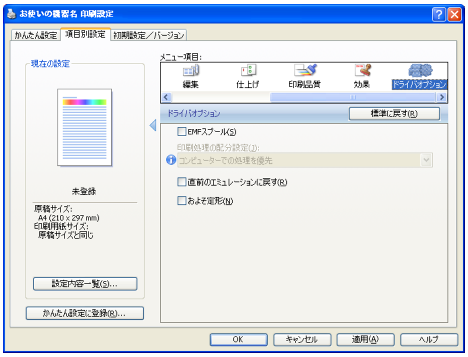
- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、［インターフェース設定］の［インターフェース切替時間］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

印刷終了後にプリンターのエミュレーションをもとに戻す

印刷後にエミュレーションの設定をもとに戻す方法について説明します。

2

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
   印刷設定を開く方法については、P.19「アプリケーションから印刷設定を表示する」を参照してください。
2. ［項目別設定］タブをクリックします。
3. 「メニュー項目：」で［ドライバオプション］メニューをクリックします。



4. 「直前のエミュレーションに戻す」チェックボックスにチェックを入れます。
5. ［OK］をクリックします。
6. アプリケーションから印刷の指示をします。
   印刷後にエミュレーションの設定がもとに戻ります。

3. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目について説明します。
本機は［機能切替］キーは、ご使用いただけません。

［メニュー］キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

♦ 用紙設定

設定項目
用紙サイズ設定：手差しトレイ
用紙サイズ設定：トレイ 1
用紙サイズ設定：トレイ 2
用紙種類設定：手差しトレイ
用紙種類設定：トレイ 1
用紙種類設定：トレイ 2
両面印刷トレイ
自動トレイ選択
優先給紙トレイ

補足

- 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

参照

- P.65 「用紙設定メニュー」

♦ 調整 / 管理

設定項目
品質調整
一般管理
時刻タイマー設定
機器設定値エクスポート

参照

• P.69 「調整 / 管理メニュー」

♦ テスト印刷

設定項目
一括リスト印刷
システム設定リスト
エラー履歴
ネットワークサマリー
サプライ情報リスト
メニューリスト
カラーサンプル
PS 情報リスト
PDF 情報リスト
ヘキサダンプ

補足

• 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。

参照

• P.72 「テスト印刷メニュー」

♦ システム設定

設定項目
エラーレポート印刷
エラースキップ
画像エラー処理
エラー表示設定
補助用紙サイズ
予熱移行時間設定
オートオフ時間設定
明るさ検知自動電源オフ
排紙上限到達時の印刷停止

設定項目
用紙幅 64-90mm の手差し印刷
白黒印刷優先設定
高湿対応
エミュレーション検知
圧縮データの解凍印刷
優先エミュレーション / プログラム
優先メモリー
白黒画像認識
RAM ディスク
自動メール通知

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。

参照

- P.76 「システム設定メニュー」

◆ 印刷設定

設定項目
一般設定
PS 設定
PDF 設定

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されない項目があります。

参照

- P.83 「印刷設定メニュー」

◆ セキュリティー管理

設定項目
セキュリティー強化
サービスモード移行禁止設定
ファームウェアバージョン表示
ネットワークセキュリティーレベル
ログ転送設定

補足

- ［サービスモード移行禁止設定］は、機器管理者としてログインしているときのみ表示されます。

3

参照

・P.90 「セキュリティー管理メニュー」

♦ インターフェース設定

設定項目
受信バッファ
インターフェース切り替え時間
ネットワーク設定
無線 LAN
USB 設定

補足

・無線 LAN は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

3

参照

・P.93 「インターフェース設定メニュー」

♦ シャットダウン

本機の電源スイッチを切るための準備をします。メモリーが破損し、誤作動を起こすのを避けるため、操作部からシャットダウンを行った後に電源スイッチを切ってください。

補足

・シャットダウンの方法は、『ハードウェアガイド』「電源を切る」を参照してください。

♦ 表示言語切替

設定項目
日本語
English

本機での設定内容を他のプリンターで使う

機器設定値エクスポート機能とは

本体操作部を使って設定した内容を SD カードに保存し、同じ機種に設定内容を引き継がせることができます。(SDHC カードは使用できません。) 引き継ぎができる設定内容は、下記のとおりです。

- ［システム設定］の各項目
- ［印刷設定］の各項目
- ［インターフェース設定］の［ネットワーク設定］(本体 IPv4 アドレスのみ)
- ［インターフェース設定］の［USB 設定］(USB ポート固定のみ)

3

設定内容を SD カードに保存する

1 ［メニュー］キーを押して各メニューで必要項目を設定します。

2 ［メニュー］キーを押して［シャットダウン］を表示させ、［OK］キーを押します。

3 ［シャットダウン］を押します。

4 本機の電源を切ります。

5 本機の拡張 SD カード用スロットの下側に SD カードを取り付けます。

6 本機の電源を入れます。

7 ［メニュー］キーを押します。

8 ［▼］［▲］キーを押して［調整 / 管理］を選択し、［OK］キーを押します。

9 ［▼］［▲］キーを押して［機器設定値エクスポート］を選択し、［OK］キーを押します。

10 確認のメッセージが表示されたら、［エクスポート］を押します。

11 保存成功のメッセージが表示されていることを確認し、［確認］を押します。

12 手順 2〜4 に沿って本機の電源を切り、設定内容を保存した SD カードを取り外します。

SD カードに保存した設定内容を他のプリンターにコピーする

1. 設定を引き継ぐプリンターの電源が入っていないことを確認します。
2. 拡張SDカード用スロット下側に設定内容を保存したSDカードを取り付けます。
3. 操作部の［ジョブリセット］キーを押し、押したままの状態で電源を入れます。
   確認のメッセージが表示されます。
4. ［インポート］を押します。
5. インポート完了のメッセージが表示されたら、プリンターの電源を切ります。
6. SD カードを取り外します。
7. プリンターの電源を入れます。
8. 設定内容が引き継がれていることを確認し、必要に応じて設定内容を変更します。

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

重要

- 「用紙サイズ設定」と「用紙種類設定」は、本機に装着されているトレイのみ画面に表示されます。

◆ 用紙サイズ設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。

工場出荷時の設定：**A4**

◆ 用紙サイズ設定：トレイ 1

トレイ 1 にセットする用紙サイズを設定します。

工場出荷時の設定：**A4**

◆ 用紙サイズ設定：トレイ 2

トレイ 2 にセットする用紙サイズを設定します。

工場出荷時の設定：**A4**

◆ 用紙種類設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙の種類を設定します。

工場出荷時の設定：**表示しない（普通紙）**

◆ 用紙種類設定：トレイ 1

トレイ 1 にセットする用紙の種類を設定します。

工場出荷時の設定：**表示しない（普通紙）**

◆ 用紙種類設定：トレイ 2

トレイ 2 にセットする用紙の種類を設定します。

工場出荷時の設定：**表示しない（普通紙）**

◆ 両面印刷トレイ

［対象にする］を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。

- トレイ 1、トレイ 2、手差しトレイ
  - 対象にする
  - 対象にしない

  工場出荷時の設定：**対象にする**

3

- ♦ **自動トレイ選択**

  ［対象にする］を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。

  - トレイ 1、トレイ 2、手差しトレイ
    - 対象にする
    - 対象にしない

    工場出荷時の設定：**対象にする**

- ♦ **優先給紙トレイ**

  「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択や拡張リミットレス給紙機能を有効にしたときに一番最初に対象となるトレイです。

  - トレイ 1
  - トレイ 2
  - 手差しトレイ

  工場出荷時の設定：**トレイ 1**

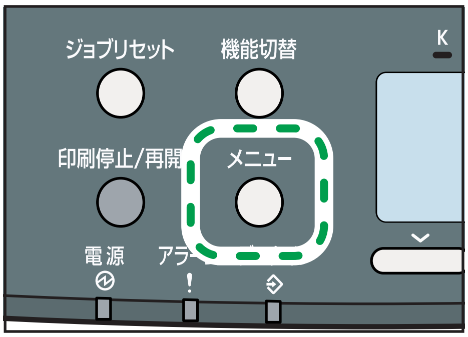
補足

- 設定できる用紙サイズおよび用紙種類については、『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」を参照してください。

用紙設定メニューの設定を変更する

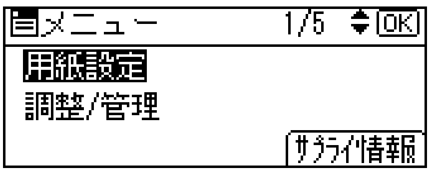
自動トレイ選択の対象から特定トレイを外す

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

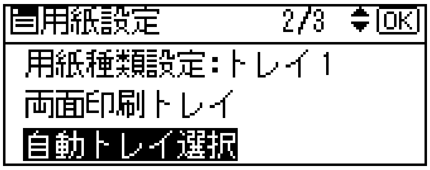


CBJ002

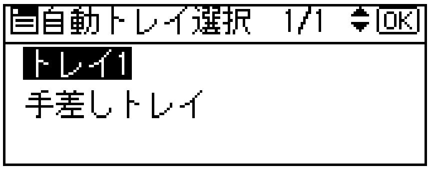
2 ［▼］［▲］キーを押して［用紙設定］を選択し、［OK］キーを押します。



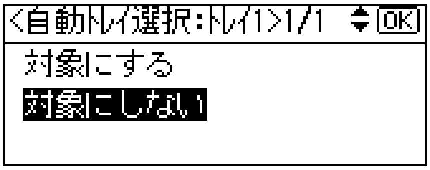
3 [▼] [▲] キーを押して [自動トレイ選択] を選択し、[OK] キーを押します。



4 [▼] [▲] キーを押して自動トレイ選択の対象としないトレイを選択し、[OK] キーを押します。



5 [▼] [▲] キーを押して [対象にしない] を選択し、[OK] キーを押します。

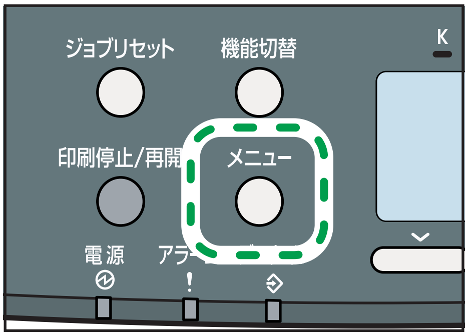


6 [メニュー] キーを押します。

3

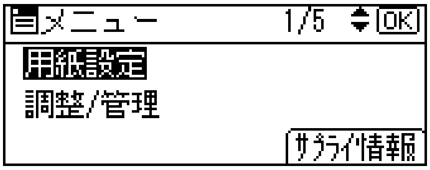
優先給紙トレイを設定する

1 操作部の［メニュー］キーを押します



CBJ002

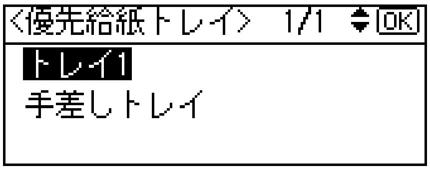
2 ［▼］［▲］キーを押して［用紙設定］を選択し、［OK］キーを押します。



3 ［▼］［▲］キーを押して［優先給紙トレイ］を選択し、［OK］キーを押します。



4 ［▼］［▲］キーを押して目的のトレイを選択し、［OK］キーを押します。



5 ［メニュー］キーを押します。

調整 / 管理メニュー

調整 / 管理メニューでは、階調や濃度など印刷時の設定調整など本機の管理についての設定ができます。

調整 / 管理メニューの設定項目

◆ 品質調整

◆ 色ずれ補正

本機を移動したとき、厚紙を印刷したとき、また通常の印刷を繰り返しているうちに、カラー原稿を印刷すると色ずれが発生することがあります。このとき、色ずれ補正を行うことにより適正な印刷結果を得ることができます。
色ずれの補正方法は、『ハードウェアガイド』「色ずれを補正する」を参照してください。

◆ 階調補正

カラー印刷の階調はさまざまな要素によって微妙に変化します。印刷を繰り返しているうちに色味が変化したり、トナーを交換したときに色味が変わることがあります。この場合、カラー階調を補正することにより、適切な階調の印刷結果を得ることができますが、通常は特に設定する必要はありません。
カラー階調の補正方法は、『ハードウェアガイド』「カラー階調を補正する」を参照してください。

◆ 印刷位置調整

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイを取り付けたときに調整します。
印刷位置の調整方法は、『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」を参照してください。

◆ 4C 描画モード

印刷時に CMYK 各色のトナーを重ね合わせる量を切り替える設定です。文字、罫線などのにじみが気になる場合に［文字優先］を選択すると改善される場合があります。
工場出荷時の設定は［写真優先］です。通常は［写真優先］でご使用ください。

◆ 一般管理

◆ サプライ交換時期

トナーカートリッジの交換時期をアラームインジケーターの点灯で知らせるタイミングを設定します。

◆ カートリッジ

- 早めに通知
- 通常
- 遅めに通知

工場出荷時の設定：**通常**

3

♦ サプライ残量表示

待機画面に、トナー残量を表示させるかさせないかを選択します。
- 待機画面に表示する
- 表示しない

工場出荷時の設定：**待機画面に表示する**

♦ メニュープロテクト

メニュープロテクトをするかしないかを設定できます。する場合はそのレベルを選択します。プロテクトの強さを弱めたい場合は、[レベル 1] を選択します。
機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。
- レベル 1
- レベル 2
- しない

工場出荷時の設定：**レベル 2**

♦ テスト印刷禁止

テスト印刷を禁止するかしないかを設定できます。
機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。
- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

♦ ブザー音

パネルのキーを押したときやプリンターに異状が発生した場合に、音を出すか出さないかを選択します。
- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**OFF**

♦ ウォームアップ通知音

ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。
[ブザー音] の設定が [ON] の場合にのみ有効です。
- ON
- OFF

工場出荷時の設定：**OFF**

♦ 画面コントラスト調整

画面のコントラストを 7 段階に調整できます。

♦ キーリピート設定

スクロールキーの長押しで、画面のスクロール、数値を入力するときの数値の増減、文字を選択するときの左右の移動をさせるかさせないかの設定をします。また、させる場合はその長押しの時間を設定できます。
- リピートしない
- 通常
- リピート時間：中
- リピート時間：長

工場出荷時の設定：**通常**

♦ 優先機能設定

本機の電源を入れた直後やオートオフモードから復帰したときに、優先的に使用する機能を設定します。

・プリンター

工場出荷時の設定：**プリンター**

♦ 時刻タイマー設定

♦ オートリセット時間設定

一定時間操作をしないとき自動的に初期画面へ戻るまでの時間を設定します。この機能が働くのは次のような場合です。

・通常のメニュー操作時

・認証に関する警告画面の表示時

［印刷停止 / 再開］キーを押してジョブを一時停止させた場合は、ここで設定した時間が経過すると、自動的に印刷を再開します。

・する

オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を 10〜999 秒（1 秒単位）の範囲で設定します。工場出荷時は **60 秒**に設定されています。

・しない

工場出荷時の設定：**する**

♦ 年月日設定

年月日を設定します。

♦ 時刻設定

時刻を設定します。

♦ 機器設定値エクスポート

SD カードに本機の設定内容を保存します。保存した内容は、同じ機種に設定を引き継ぐことができます。詳細は P.63 「本機での設定内容を他のプリンターで使う」を参照してください。

3

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。
また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

◆ 一括リスト印刷
システム設定リストとエラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ システム設定リスト
本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。
詳細は P.74 「システム設定リストの見かた」を参照してください。

◆ エラー履歴
エラーになったジョブの履歴が印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ ネットワークサマリー
ネットワークの設定内容が印刷されます。

◆ サプライ情報リスト
サプライ情報が印刷されます。

◆ メニューリスト
設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ カラーサンプル
カラーサンプルが印刷されます。

◆ PS 情報リスト
拡張 PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳細は『PostScript 3 編』を参照してください。

◆ PDF 情報リスト
拡張 PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。
エミュレーションの PDF が対象となります。

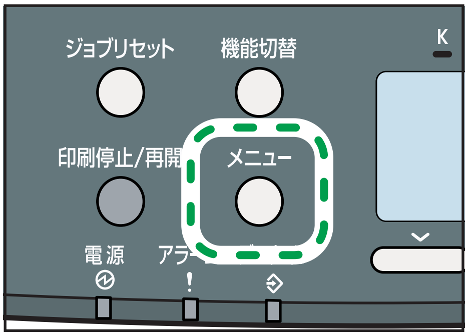
◆ ヘキサダンプ
印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

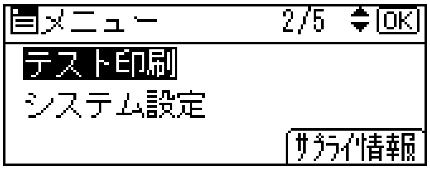
システム設定リストを印刷する

1 ［メニュー］キーを押します。

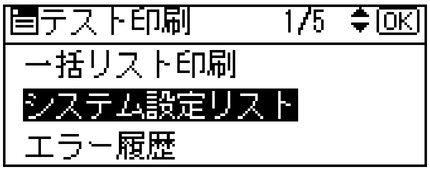


CBJ002

2 ［▼］［▲］キーを押して［テスト印刷］を選択し、［OK］キーを押します。



3 ［▼］［▲］キーを押して［システム設定リスト］を選択し、［OK］キーを押します。



4 印刷終了後、［メニュー］キーを押します。

補足

- システム設定リストはA4またはLetter（8 1/2"×11"）で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイにA4またはLetter（8 1/2"×11"）の用紙をセットしてください。

システム設定リストの見かた



システム設定リスト　CASIO SPEEDIA V2500

1 ■システム構成情報　　2011年03月07日 10時39分40秒

機番	608000007	搭載メモリ	384 MB
トータルカウンター	6854[白黒: 1802/カラー: 5052]		
ファームウェアバージョン	プリンター[1.00 / M0755252], システム[1.00 / M0755251], エンジン[00.50 :05 / M0755130C], NIB[9.62b1.1 / M0755253]		
接続デバイス	無線LAN		
搭載エミュレーション	Adobe PostScript 3 [1.00], Adobe PDF [1.00], RPCS [3.10.18]		
接続機器	トレイ2		

2 ■用紙設定

優先給紙トレイ	トレイ1		
手差しトレイ	A5R	148.0 x 210.0mm	普通紙
トレイ1	不定形サイズ	200.0 x 270.0mm	厚紙1
トレイ2	A4R	210.0 x 297.0mm	普通紙

3 ■調整/管理

印刷位置調整-ヨコ：トレイ1	0	印刷位置調整-ヨコ：トレイ2	0
印刷位置調整-ヨコ：手差しトレイ	0	印刷位置調整-ヨコ：両面時裏面	0
印刷位置調整-タテ：トレイ1	0	印刷位置調整-タテ：トレイ2	0
印刷位置調整-タテ：手差しトレイ	0	印刷位置調整-タテ：両面時裏面	0
4C描画モード	写真優先	サプライ交換時期-カートリッジ	通常
サプライ残量表示	待機画面に表示する	メニュープロテクト	レベル2
テスト印刷禁止	しない	ブザー音	OFF
ウォームアップ通知音	OFF	画面コントラスト調整	4
キーリピート設定	通常	優先機能設定	プリンター
オートリセット時間設定	する	リセットまでの時間	60

4 ■システム設定　　＊マークは設定値が初期値と異なる項目です。

エラーレポート印刷	しない	エラースキップ	しない
画像エラー処理	ジョブリセット	エラー表示設定	すべて表示
補助用紙サイズ	しない	予熱移行設定	移行しない
予熱移行時間	10秒	オートオフ設定	移行する
オートオフ時間	8分	自動電源オフ設定	無効
自動電源ｵﾌ移行時間	30分	センサー感度	レベル3(暗い)
排紙上限到達時の印刷停止	無効	用紙幅64-90mmの手差し印刷	無効
白黒印刷優先設定	しない	高湿対応設定	しない
高湿対応レベル	レベル1(弱)	エミュレーション検知	する
圧縮ﾃﾞｰﾀの解凍印刷	しない	優先ｴﾐｭﾚｰｼｮﾝ/ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	RPCS
優先メモリー	ページメモリー	白黒画像認識	ページごと
RAMディスク	4MB	自動メール通知	する

5 ■一般設定

印刷枚数	1	180度回転	しない
レターヘッド紙使用設定	使用する(自動判定)	手差しトレイ	ドライバー/コマンド優先
トレイ1	機器側設定優先	トレイ2	機器側設定優先
トレイ指定時動作切り替え	しない	拡張リミットレス給紙	しない
グレー印刷方式(グレー認識広め)	カラー		

6 ■PS設定

ジョブタイムアウト	ドライバー/コマンド優先	ジョブタイムアウト時間(秒)	0
ウェイトタイムアウト	ドライバー/コマンド優先	ウェイトタイムアウト時間(秒)	300
両面印刷	しない	白紙排紙	する
データ形式	バイナリデータ	解像度	600dpi(2階調)
RGB補正	精密(濃いめ)	カラープロファイル	自動
プロセスカラーモデル	カラー	最大領域印刷	しない
印刷方向自動検知	する		

7 ■PDF設定

両面印刷	しない	白紙排紙	する
最終ページから印刷	しない	解像度	600dpi(2階調)
RGB補正	精密(濃いめ)	カラープロファイル	自動
プロセスカラーモデル	カラー	最大領域印刷	しない
印刷方向自動検知	する		

8 ■インターフェース設定

受信バッファ	128KB	I/F切り替え時間	15秒
DHCP	On	IPv4アドレス	11. 22. 33. 44
サブネットマスク	0. 0. 0. 0	IPv4ｹﾞｰﾄｳｪｲｱﾄﾞﾚｽ	0. 0. 0. 0
IPv6ステートレス設定	有効	IPsec	無効
IPv4	有効	IPv6	無効
SMB	有効	AppleTalk	有効
イーサネット速度	自動選択	イーサネット用IEEE 802.1X認証	無効
インターフェース選択	イーサネット	SSL/TLS通信許可設定	暗号文優先
通信モード	インフラストラクチャーモード	SSID設定	
アドホックチャンネル	11	通信速度	自動設定
セキュリティー方式選択	しない	WPA暗号方式	CCMP (AES)
WPA認証方式	WPA-PSK	USB速度	自動設定

9 ■インターフェース情報

物理アドレス	00.26.73.1a.55.b4	ホスト名	RNP1A55B4
ワークグループ名(SMB)	WORKGROUP	ネットワークパス名(SMB)	¥¥RNP1A55B4¥CASIO V2500
物理アドレス(無線LAN)	00.00.74.fc.48.36		
無効インターフェース	なし		

10 ■ユーザー用紙種類

1: +ハガキ	厚紙2	2: +Custom 2	普通紙
3: +Custom 3	普通紙	4: +Custom 4	普通紙
5: +Custom 5	普通紙	6: +Custom 6	普通紙
7: +Custom 7	普通紙	8: +Custom 8	普通紙

CBJ519

1 システム構成情報

本機のカウンター情報やバージョン情報、オプションの装着状況、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

2 用紙設定

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

3 調整／管理

濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。

4 システム設定
システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

5 一般設定
一般設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

6 PS 設定
拡張 PS3 カードが装着されているときの項目と設定値です。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

7 PDF 設定
拡張 PS3 カードが装着されているときの設定値です。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

8 インターフェース設定
インターフェース設定の項目と設定値です。

9 インターフェース情報
動作モードやプリンター名など、インターフェース設定の情報です。

10 ユーザー用紙種類
ユーザー用紙種類に登録されている用紙名称と用紙種類が印刷されます。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

♦ エラーレポート印刷

エミュレーションが RPCS、PS3、PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

♦ エラースキップ

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- しない
  プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。
- 即時
  用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。
- 1 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。
- 5 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。
- 10 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。
- 15 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

工場出荷時の設定：**しない**

♦ 画像エラー処理

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- ジョブリセット
  エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。

・エラーシート印刷
エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大16ページ分印刷します。

工場出荷時の設定：**ジョブリセット**

♦ エラー表示設定

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定できます。

・簡易表示
・すべて表示

工場出荷時の設定：**すべて表示**

♦ 補助用紙サイズ

指定した用紙サイズが給紙トレイにない場合に、用紙サイズの切り替えをするかどうかを設定します。

本機能はA4、Letter（8 $^1/_2$" × 11"）間の用紙サイズ切り替えのみに対応しています。

切替を行った場合、A4 と Letter（8 $^1/_2$" × 11"）では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れたり、正常に印刷されなかったりします。

・自動
・しない

工場出荷時の設定：**しない**

♦ 予熱移行時間設定

一定時間操作を行わなかったときに、予熱状態になるまでの時間を設定します。

・予熱移行設定
予熱状態に移行するかしないかを選択できます。
  ・移行する
  ・移行しない
工場出荷時の設定：**移行しない**

・予熱移行時間
予熱状態に移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間に本機を使用しないと、予熱状態に切り替わります。予熱状態中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。
  ・10秒
  ・1分
  ・5分
  ・15分
  ・30分
  ・45分
工場出荷時の設定：**10秒**

3

◆ オートオフ時間設定

オートオフとは、本機の消費電力を節約する機能です。

- オートオフ設定
  オートオフモードに移行するかしないかを選択できます。
  - 移行する
  - 移行しない

  工場出荷時の設定：**移行する**
- オートオフ時間
  オートオフモードへの移行時間を設定します。移行時間の間に本機を使用しないと、オートオフモードに切り替わります。オートオフモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。
  - 1 分
  - 5 分
  - 8 分
  - 15 分
  - 30 分
  - 60 分

  工場出荷時の設定：**8 分**

3

◆ 明るさ検知自動電源オフ

室内が暗くなったのを検知して、自動的に本機の電源を切ります。

- 自動電源オフ設定
  明るさ検知自動電源オフを有効にするか、無効にするかを選択できます。
  - 有効
  - 無効

  工場出荷時の設定：**無効**
- 自動電源オフ移行時間
  室内が暗くなったのを検知してから本機の電源を切るまでの時間を設定します。
  設定した時間になる前に室内が明るくなった場合や、印刷やキーの入力が行われた場合に、タイマーはリセットされます。
  - 5 分
  - 15 分
  - 30 分
  - 60 分
  - 120 分

  工場出荷時の設定：**30 分**
- センサー感度
  光量センサーの感度を設定します。
  - レベル 1（非常に暗い）
  - レベル 2
  - レベル 3（暗い）
  - レベル 4
  - レベル 5（やや暗い）

  工場出荷時の設定：**レベル 3（暗い）**

◆ 排紙上限到達時の印刷停止

出力紙が排紙トレイからあふれたり、排紙トレイにある印刷済みの用紙にまぎれることを防ぐため、送られたジョブの数に関わらず、連続で上限枚数の用紙が排紙された場合に、印刷を停止する機能です。

この機能を有効にした場合の上限枚数はおよそ 150 枚です。

印刷を再開する場合は、排紙トレイの用紙を取り除いてから操作部画面の［印刷再開］を押します。

一部のリスト印刷などで上限枚数に達した場合は、メッセージを表示せずに印刷をキャンセルします。

・有効
・無効

工場出荷時の設定：**無効**

◆ 用紙幅 64-90mm の手差し印刷

幅 90mm 未満の用紙で印刷する場合は、［有効］に設定します。それ以外の用紙に印刷する場合は、［無効］に設定します。

・有効
・無効

工場出荷時の設定：**無効**

◆ 白黒印刷優先設定

カラー印刷よりも、おもに白黒印刷をお使いになる場合は、この機能を有効にすることで、カラートナーの消費をおさえることができます。

この機能を有効にすると、カラー印刷時に 1 枚目の印刷速度が通常よりも遅くなる場合があります。

・する
・しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ 高湿対応

湿度の高い環境で印刷する場合に、印刷後の用紙の反りや印刷品質の低下をおさえます。
この機能を有効にすると、印刷速度が通常よりも遅くなります。

・高湿対応設定
　・する
　・しない
　工場出荷時の設定：**しない**
・高湿対応レベル
　・レベル 1(弱)
　・レベル 2(中)
　・レベル 3(強)
　工場出荷時の設定：**レベル 1(弱)**

3

◆ **エミュレーション検知**

本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのは PS3、PDF です。これら対象エミュレーションが 2 種類以上搭載されている場合に表示されます。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

・する
・しない

工場出荷時の設定：**する**

［エミュレーション検知］を［する］に設定しても、エミュレーション切り替えコマンドを受信した場合は、エミュレーション切り替えコマンドが優先されます。［する］のときの各エミュレーションの動作については、各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

転送されたデータの種類によっては、正しいエミュレーションに切り替わらない場合があります。

連続してデータを送信する場合、［エミュレーション検知］が機能しないことがあります。その場合はデータを送信する間隔をあけてください。

◆ **圧縮データの解凍印刷**

本機に送られた圧縮データを扱うか扱わないかを選択します。対応している圧縮形式は GZIP 形式です。

・する
・しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ **優先エミュレーション / プログラム**

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

「プログラム 1」～「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。

・RPCS
・PS3
・PDF
・プログラム 1～16

工場出荷時の設定：**RPCS**

◆ **優先メモリー**

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

・ユーザーメモリー
  PDL のワークメモリーに多くのメモリー領域を割り当てる設定です。メモリー不足で印刷できないときに設定します。
・ページメモリー
  画像メモリーに多くのメモリー領域を割り当てる設定です。印刷物によっては印刷速度を上げることが出来ます。

工場出荷時の設定：**ページメモリー**

♦ 白黒画像認識

白黒画像認識をするかしないかを選択します。白黒画像認識とは、印刷がカラー指定をされていても、白黒の原稿の場合は白黒モードで印刷できる機能です。

- ・ページごと
- ・文書ごと

工場出荷時の設定：**ページごと**

♦ RAM ディスク

PDF ダイレクトプリントをする場合に指定します。2MB 以上の値を指定してください。

- ・0MB
- ・2MB
- ・4MB
- ・8MB

工場出荷時の設定：**4MB**

♦ 自動メール通知

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかを指定します。

設定を変更したときは、いったん本機の電源を切り、あらためて電源を入れなおしてください。

- ・する
- ・しない

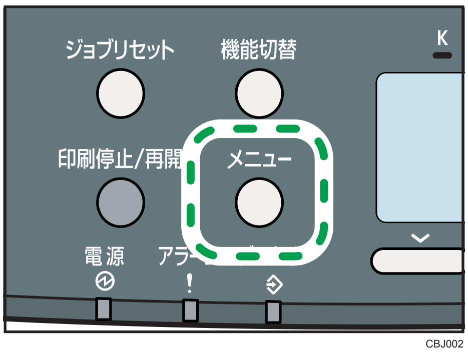
工場出荷時の設定：**する**

3

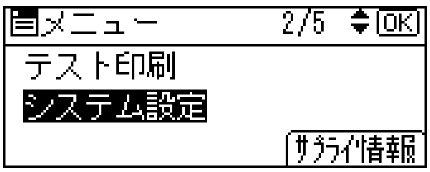
システム設定メニューの設定を変更する

システム設定メニュー「オートオフ時間」の変更方法を例に説明します。

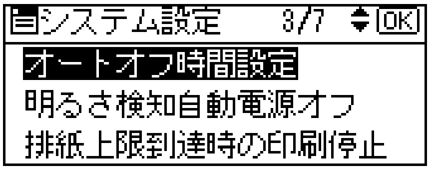
1 操作部の［メニュー］キーを押します。



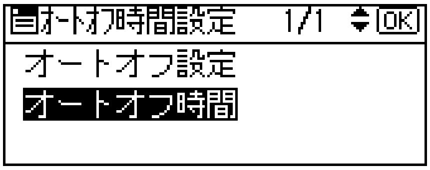
2 ［▼］［▲］キーを押して［システム設定］を選択し、[OK] キーを押します。



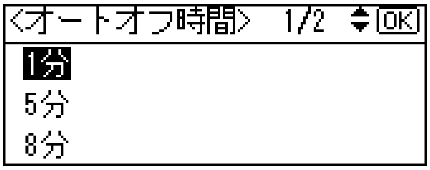
3 [▼] [▲] キーを押して [オートオフ時間設定] を選択し、[OK] キーを押します。



4 [▼] [▲] キーを押して [オートオフ時間] を選択し、[OK] キーを押します。



5 [▼] [▲] キーを押して変更する設定値を選択し、[OK] キーを押します。



6 [メニュー] キーを押します。

印刷設定メニュー

印刷を行うときの印刷条件を設定します。

印刷設定メニューの設定項目

♦ 一般設定

♦ 印刷枚数設定

拡張 PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。印刷枚数を 1〜999 枚の間で設定できます。プリンタードライバーで印刷部数を指定した場合は、プリンタードライバーの設定が有効になります。

工場出荷時の設定：1

♦ 180 度回転

180 度回転印刷をするかしないかを設定できます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**しない**

♦ レターヘッド紙使用設定

レターヘッド紙のように印刷方向や印刷面が決まっている用紙を正しく印刷するために設定します。

この機能を有効にして両面印刷を行うと、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。

両面印刷を許可しているトレイからソート印刷をすると、1 部目と 2 部目以降で印刷面が異なる場合があります。印刷する面をすべて同一にしたいときは、両面印刷を禁止しているトレイから給紙してください。

この機能を使用するときは、用紙のセット方向に注意が必要です。詳細は『ハードウェアガイド』「天地の向き、表裏のある用紙に印刷する」を参照してください。

・使用しない

　レターヘッド紙印刷を行いません。

・使用する（自動判定）

　印刷方向や印刷面が決まっている用紙が 1 ページ目に指定された場合に、レターヘッド紙印刷を行います。

・使用する（常時）

　常にレターヘッド紙印刷を行います。

工場出荷時の設定：**使用する（自動判定）**

♦ トレイ設定選択

用紙設定（用紙サイズ、用紙種類）を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

♦ **手差しトレイ**

手差しトレイの用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

［全用紙サイズ・用紙種類許可］および［全不定形サイズ・用紙種類許可］を設定して蓄積された文書の場合、蓄積後に設定を変更しても蓄積したときの設定で印刷されます。

［全用紙サイズ・用紙種類許可］および［全不定形サイズ・用紙種類許可］に設定した場合、手差しトレイも、拡張リミットレス給紙機能の対象となります。

- ドライバー / コマンド優先

  給紙トレイを指定して印刷する場合、本機に設定されている用紙設定にかかわらず、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を適用して印刷します。
- 機器側設定優先

  本機に設定されている用紙設定で印刷します。プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定と本機の用紙設定が一致しない場合は、エラーになります。
- 全用紙サイズ・用紙種類許可

  プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を手差しトレイに適用し、印刷を継続することができます。対象となるのは RPCS、PS3、PDF です。
- 全不定形サイズ・用紙種類許可

  プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷を継続することができます。対象となるのは RPCS、PS3、PDF です。

工場出荷時の設定：**ドライバー / コマンド優先**

♦ **トレイ 1**

トレイ 1 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー / コマンド優先
- 機器側設定優先

工場出荷時の設定：**機器側設定優先**

♦ **トレイ 2**

トレイ 2 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ドライバー / コマンド優先
- 機器側設定優先

工場出荷時の設定：**機器側設定優先**

♦ **トレイ指定時動作切り替え**

プリンタードライバーから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

拡張 PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ 拡張リミットレス給紙

自動用紙選択ではなく、給紙トレイ指定時でも拡張リミットレス給紙をするように設定します。

・する

[する] を選択したときは、プリンタードライバーや印刷条件の [リミットレス給紙] の設定に関係なく、拡張リミットレス給紙機能が有効になります。

・しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ グレー印刷方式（グレー認識広め）

目で見たときに、モノクロのように見える画像をモノクロで印刷するかしないかを設定します。対象となるのは RPCS、PS3、PDF です。

・黒 1 色

・カラー

工場出荷時の設定：**カラー**

以下の場合は、この設定が無効になります。

・プリンタードライバーの［項目別設定］タブの「メニュー項目：」で、［印刷品質］メニューの「グレー印刷方式：」から［黒 1 色（グレー認証範囲を広げる）］を選択していない場合

・プリンタードライバーの［項目別設定］タブの「メニュー項目：」で、［印刷品質］メニューの「カラーユニバーサルデザイン対応印刷：」から［する］を選択している場合

◆ PS 設定

拡張 PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PS3］を呼び出しているときのみ設定できます。

◆ ジョブタイムアウト

ジョブが中断した場合に、現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します（秒単位）。［0］に設定した場合、ジョブタイムアウトは行われません。

［ドライバー / コマンド優先］を選択した場合、0~999 の値を入力します。工場出荷時は、0 に設定されています。

・ドライバー / コマンド優先

・機器側設定優先

工場出荷時の設定：**ドライバー / コマンド優先**

◆ ウェイトタイムアウト

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します（秒単位）。[0] に設定した場合、ウェイトタイムアウトは行われません。

［ドライバー / コマンド優先］を選択した場合、0~999 の値を入力します。工場出荷時は、300 に設定されています。

・ドライバー / コマンド優先

・機器側設定優先

工場出荷時の設定：**ドライバー / コマンド優先**

◆ 両面印刷

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

・しない

・長辺

・短辺

工場出荷時の設定：**しない**

◆ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**する**

◆ データ形式

データ形式を設定します。

・バイナリデータ

・TBCP

工場出荷時の設定：**バイナリデータ**

◆ 解像度

解像度を設定します。

・600dpi 2階調

・600dpi 標準

・1200dpi

工場出荷時の設定：**600dpi 2階調**

◆ RGB補正

RGB補正を設定します。

・しない

・精密（ふつう）

・精密（濃いめ）

工場出荷時の設定：**精密（濃いめ）**

◆ カラープロファイル

カラープロファイルを設定します。

・自動

・ビジネス

・ベタ

・フォト

・ユーザー設定

工場出荷時の設定：**自動**

◆ プロセスカラーモデル

プロセスカラーモデルを設定します。

・カラー

・白黒

工場出荷時の設定：**カラー**

◆ 最大領域印刷

用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ **印刷方向自動検知**

データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**する**

◆ **PDF 設定**

拡張 PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの［PDF］を呼び出しているときのみ設定できます。

◆ **PDF パスワード変更**

印刷する PDF ファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

◆ **PDF グループパスワード**

この機能は本機では使用できません。

◆ **両面印刷**

両面印刷をするかしないかを設定できます。する場合はその方向を設定します。

・しない

・長辺

・短辺

工場出荷時の設定：**しない**

◆ **白紙排紙**

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**する**

◆ **最終ページから印刷**

ページ順を逆にし、最終ページから印刷することができます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ **解像度**

解像度を設定します。

・600dpi ２階調

・600dpi 標準

・1200dpi

工場出荷時の設定：**600dpi ２階調**

◆ **RGB 補正**

RGB 補正を設定します。

・しない

・精密（ふつう）

・精密（濃いめ）

工場出荷時の設定：**精密（濃いめ）**

3

◆ **カラープロファイル**

カラープロファイルを設定します。

- 自動
- ビジネス
- ベタ
- フォト
- ユーザー設定

工場出荷時の設定：**自動**

◆ **プロセスカラーモデル**

プロセスカラーモデルを設定します。

- カラー
- 白黒

工場出荷時の設定：**カラー**

◆ **最大領域印刷**

用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを設定できます。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

◆ **印刷方向自動検知**

データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。

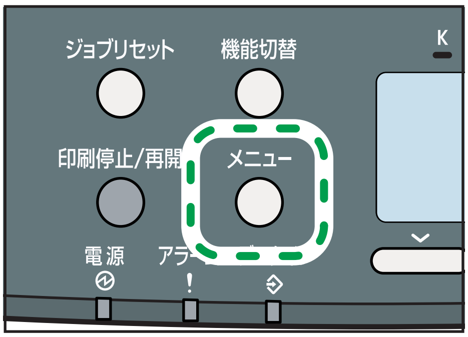
- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

印刷設定メニューの設定を変更する

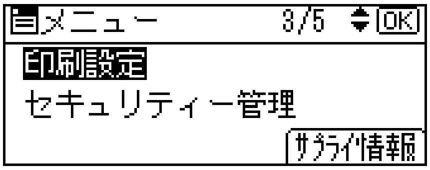
印刷設定メニュー「180 度回転」の設定方法を例に説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

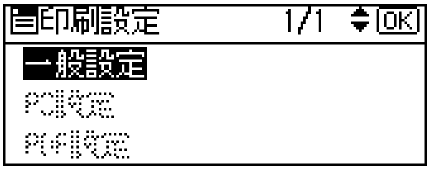


CBJ002

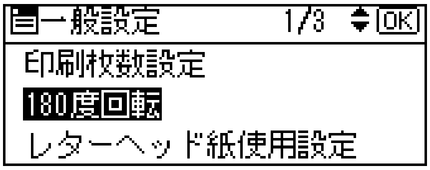
2 ［▼］［▲］キーを押して［印刷設定］を選択し、［OK］キーを押します。



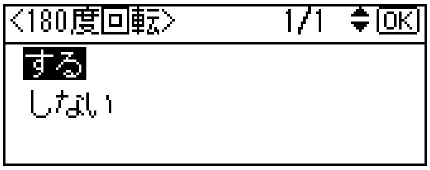
3 ［▼］［▲］キーを押して［一般設定］を選択し、［OK］キーを押します。



4 ［▼］［▲］キーを押して［180 度回転］を選択し、［OK］キーを押します。



5 ［▼］［▲］キーを押して［する］を選択し、［OK］キーを押します。



6 ［メニュー］キーを押します。

セキュリティー管理メニュー

セキュリティーに関する設定を行います。表示条件や操作権限など、詳細は管理者にお問い合わせください。

セキュリティー管理メニューの設定項目

♦ セキュリティー強化

♦ アドレス帳暗号化

本機のアドレス帳情報を暗号化します。内部の部品が流出したときにも暗号化によりアドレス帳の情報を読み取ることはできません。暗号化する場合は暗号鍵を設定します。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**しない**

♦ 文書保護強化

この機能はご使用いただけません。

♦ SNMPv1, v2 による設定

SNMPv1、v2 を使った設定を禁止するかしないかを設定できます。

・禁止する

・禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

♦ 簡易暗号化使用制限

高度な暗号化が設定できないときに、簡易暗号化処理を行います。

簡易暗号化処理を行う場合、[制限しない] に設定します。

・制限する

・制限しない

工場出荷時の設定：**制限しない**

♦ @Remote サービス

この機能はご使用いただけません。

♦ ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートを禁止するかしないかを設定できます。

・禁止する

・禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

♦ **構成変更**

ファームウェアの構成変更を禁止するかしないかを設定できます。

・禁止する

・禁止しない

工場出荷時の設定：**禁止しない**

♦ **サービスモード移行禁止設定**

サービスモードへの移行を禁止するかしないかを設定できます。機器管理者としてログインしているときのみ設定できます。

・する

・しない

工場出荷時の設定：**しない**

♦ **ファームウェアバージョン表示**

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

♦ **ネットワークセキュリティーレベル**

ネットワークセキュリティーのレベルを選択します。

・レベル 0

・レベル 1

・レベル 2

工場出荷時の設定：**レベル 0**

♦ **ログ転送設定**

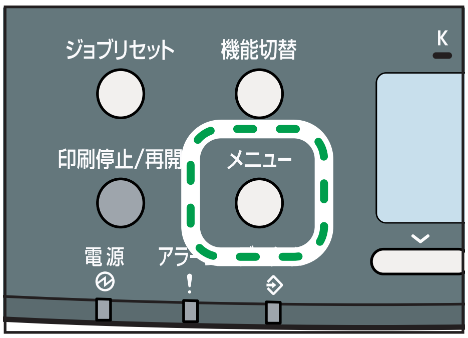
この機能はご使用いただけません。

3

セキュリティー管理メニューの設定を変更する

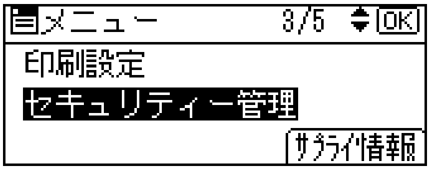
セキュリティー管理メニュー「簡易暗号化使用制限」の初回設定方法を例に説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

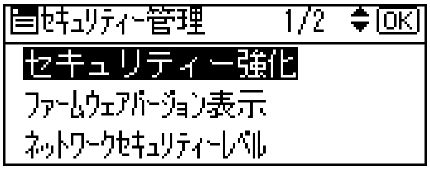


CBJ002

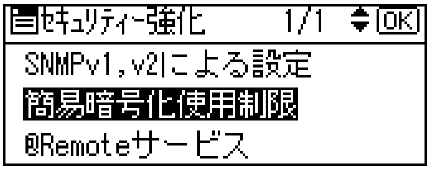
2 [▼] [▲] キーを押して [セキュリティー管理] を選択し、[OK] キーを押します。



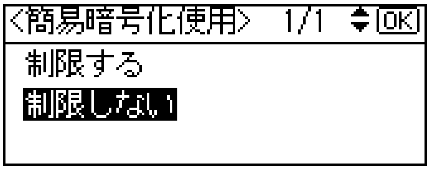
3 [▼] [▲] キーを押して [セキュリティー強化] を選択し、[OK] キーを押します。



4 [▼] [▲] キーを押して [簡易暗号化使用制限] を選択し、[OK] キーを押します。



5 [▼] [▲] キーを押して [制限する] または [制限しない] を選択し、[OK] キーを押します。



6 [メニュー] キーを押します。

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続およびローカル接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

♦ 受信バッファ

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 128KB
- 256KB

工場出荷時の設定：**128KB**

♦ インターフェース切り替え時間

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると 1 つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- 10 秒
- 15 秒
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒

工場出荷時の設定：**15 秒**

♦ ネットワーク設定

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するための設定をします。詳しい各項目の設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- 本体 IPv4 アドレス
  - 自動的に取得（DHCP）
    この項目を選択すると、DHCP が有効になります。
  - 指定
    - IP アドレス
      工場出荷時の設定：**11.22.33.44**
    - サブネットマスク
      工場出荷時の設定：**0.0.0.0**
    - ゲートウェイ
      工場出荷時の設定：**0.0.0.0**

  工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

3

- IPv6 ステートレス設定
  IPv6 ステートレスアドレス設定の有効 / 無効を切り替えます。
  - 有効
  - 無効
  工場出荷時の設定：**有効**
- IPsec
  - 有効
  - 無効
  工場出荷時の設定：**無効**
- 有効プロトコル
  - IPv4
    - 有効
    - 無効
    工場出荷時の設定：**有効**
  - IPv6
    - 有効
    - 無効
    工場出荷時の設定：**無効**
  - SMB
    - 有効
    - 無効
    工場出荷時の設定：**有効**
  - AppleTalk
    ［AppleTalk］は、拡張 PS3 カードを装着しているときに表示されます。
    - 有効
    - 無効
    工場出荷時の設定：**有効**
- イーサネット速度
  イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。
  - 自動設定
  - 10Mbps 半二重固定
  - 10Mbps 全二重固定
  - 100Mbps 半二重固定
  - 100Mbps 全二重固定
  工場出荷時の設定：**自動設定**
- イーサネット用 IEEE 802.1X 認証
  イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。
  IEEE 802.1X 認証については『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。
  - 有効
  - 無効
  工場出荷時の設定：**無効**

3

- IEEE 802.1X 認証初期化
  IEEE 802.1X 認証の設定値を初期化します。
- インターフェース選択
  インターフェース選択は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。
  - イーサネット
  - 無線 LAN

  工場出荷時の設定：**イーサネット**
- SSL/TLS 通信許可設定
  SSL/TLS 暗号化通信モードを設定します。
  - 暗号文のみ
    暗号化通信のみを許可します。
    暗号化できない場合は、通信できません。
  - 暗号文優先
    暗号化できる場合は、暗号化通信します。
    暗号化できない場合は、平文で通信します。
  - 暗号文 / 平文
    暗号化、または平文の指定された方法で通信します。

  工場出荷時の設定：**暗号文優先**

3

♦ 無線 LAN

無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。拡張無線 LAN ボード装着時に表示されます。

♦ 通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。
通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- 802.11 アドホックモード
- インフラストラクチャーモード

工場出荷時の設定：**インフラストラクチャーモード**

♦ SSID 設定

SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。
SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 文字列 0x20〜0x7e）で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。
SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

♦ アドホックチャネル

802.11 アドホックモードを選択したときに使用するチャンネル（チャネル）を設定します。使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。使用できるチャンネルは以下のとおりです。

- IEEE 802.11b/g を使用する場合
  1〜14
- IEEE 802.11a を使用する場合
  36、40、44、48

工場出荷時の設定：**11**

♦ セキュリティー方式選択

無線 LAN の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合はその方式を選択し、キーを設定します。

- しない
- WEP
  ［詳細設定］キーを押し、WEP キーを入力します。WEP キーは、16 進数または ASCII 文字列で入力します。
  64bit WEP を使用する場合、16 進数では 10 桁、ASCII 文字列では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、ASCII 文字列では 13 桁の文字列が使用できます。
  WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。
- WPA
  WPA は、［通信モード］で［インフラストラクチャーモード］を選択したときに設定できます。
  ［詳細設定］キーを押し、暗号方式または認証方式を選択します。
  - 暗号方式：TKIP/CCMP（AES）
  - 認証方式：WPA-PSK/WPA/WPA2-PSK/WPA2
    ［WPA-PSK］または［WPA2-PSK］を選択した場合は、PSK を半角英数字 8-63 文字の範囲で入力します。
    ［WPA］または［WPA2］を選択した場合は、認証方式や機器証明書の導入などの設定が必要です。詳細は『ハードウェアガイド』「IEEE 802.1X を設定する」を参照してください。

工場出荷時の設定：**しない**

◆ **電波状態**

無線 LAN の電波状態を確認します。

◆ **設定値初期化**

無線 LAN の設定を初期化します。

◆ **USB 設定**

本機とパソコンを USB で接続する場合の通信に関する設定を行います。

- USB 速度
  - 自動選択
  - フルスピード

  工場出荷時の設定：**自動選択**
- USB ポート固定
  本機を USB 接続して使用する場合、
  印刷する USB ポートを固定するかしないかを設定します。
  - レベル 1
    USB ポートを固定します。USB 接続した台数分のプリンターを作成することなく USB ポートを固定します。
    ただし USB 接続の本機を複数台数、電源が入った状態で使用する場合は台数分のプリンターが作成されます。
  - レベル 2
    本機では、この設定はご使用いただけません。

- しない

  USB ポートを固定しません。本機を複数台数 USB 接続すると、その都度、プリンターが作成されます。

  USB 接続の本機を複数台、電源の入った状態で使用しない場合でも台数分のプリンターが作成されます。

工場出荷時の設定：**しない**

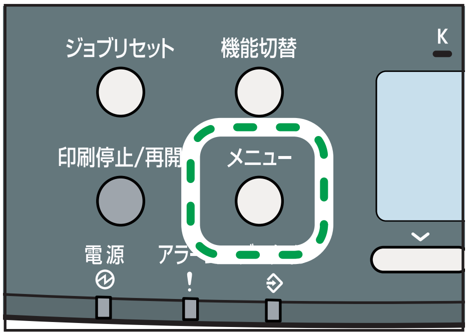
補足

- Web Image Monitor からの設定方法について、詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

インターフェース設定メニューの設定を変更する

インターフェース設定メニュー「ネットワーク設定」で、IPv4 アドレスを自動的に取得する方法を例に説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します

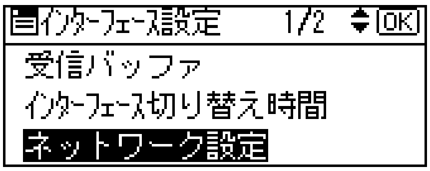


CBJ002

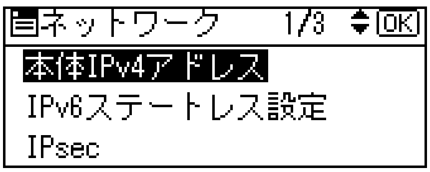
2 ［▼］［▲］キーを押して［インターフェース設定］を選択し、［OK］キーを押します。



3 ［▼］［▲］キーを押して［ネットワーク設定］を選択し、［OK］キーを押します。



4 ［▼］［▲］キーを押して［本体 IPv4 アドレス］を選択し、［OK］キーを押します。



5 [▼] [▲] キーを押して [自動的に取得 (DHCP)] を選択し、[OK] キーを押します。



6 [メニュー] キーを押します。

表示言語切替メニュー

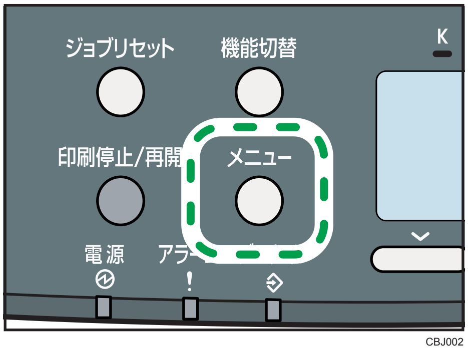
表示言語切替メニューの設定項目

操作部の画面に表示する言語として、日本語と英語を選択できます。
工場出荷時は、日本語に設定されています。

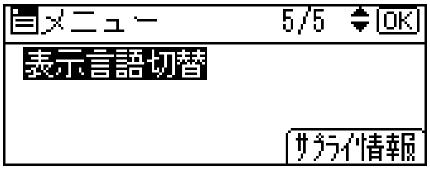
表示言語切替メニューの設定を変更する

ここでは、日本語から英語に切り替える場合を例に説明します。

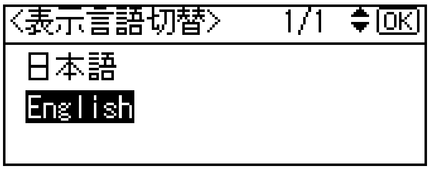
1. 操作部の［メニュー］キーを押します。



2. ［▼］［▲］キーを押して［表示言語切替］を選択し、［OK］キーを押します。



3. ［▼］［▲］キーを押して［English］を選択し、［OK］キーを押します。



4. ［メニュー］キーを押します。

補助メニュー

補助メニューでは、強制排紙やエラー履歴、エミュレーションの設定などを行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目の一覧を説明します。

補助メニューの項目

◆ 強制排紙

改行コードがないなどの理由で印刷できないデータを印刷します。

◆ エラー履歴表示

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラーの履歴が残り、操作部で確認することができます。

エラー履歴には最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件が蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。

本体の電源を切ると、それまでの履歴は消去されます。

・すべて

◆ エミュレーション呼び出し

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

搭載されているエミュレーションか登録されているプログラムを選択できます。詳細は各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

・RPCS
・PS3
・PDF
・プログラム 1〜16

工場出荷時の設定：RPCS

4. 機器の管理

Web ブラウザーやソフトウェアを使った、機器の監視や設定について説明します。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

Web Image Monitor について

Web Image Monitor は､離れた場所にある機器の状態確認や設定変更をネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

♦ どんなことができるのか？

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- メール通知機能の設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定

♦ 本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

♦ 推奨ブラウザー

- Windows 環境：
  Internet Explorer 5.5 SP2 以降
  Firefox 1.0 以降
- Macintosh 環境：
  Firefox 1.0 以降
  Safari 1.0、1.2、2.0（412.2）以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 推奨するアプリケーション
  95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降
- 動作環境
  Windows 環境：Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

補足

- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳細は管理者にお問い合わせください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- Internet Explorer 8 を使用しているとき、ダウンロードに時間がかかることがあります。本体の URL を［インターネットオプション］から信頼済みサイトとして登録し、サイトの SmartScreen フィルター機能を無効にしてください。Internet Explorer 8 の設定について詳細は Internet Explorer 8 のヘルプを参照してください。
- Web ブラウザーに表示される URL をブックマーク登録すると、Web Image Monitor 画面をすぐに呼び出すことができます。登録する際は、ログイン前のトップページ画面で行ってください。ログイン後のトップページ画面で登録した場合は、正しく表示されません。

トップページを表示する

1. Web ブラウザーを起動します。

2. Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

   DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。
   サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力します。



1 ヘッダーエリア
ヘルプや、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2 メニューエリア
ゲストモードと管理者モードとの切り替えのためのログイン / ログアウトボタンが表示され、それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。
メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

3 ヘルプ
ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

4 ワークエリア
トップページでは、現在の機器の状態を表示します。
また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。
ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

4

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

メニュー構成とモードについて

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。
また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

♦ ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



CBJ521

1 ホーム

［状態］、［消耗品］、［構成］、［カウンター］の各タブが表示され、ワークエリアに詳細情報が表示されます。

2 ジョブ

印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴などの一覧表示ができます。

3 設定

本機のシステム、インターフェースおよびネットワークの設定内容が表示されます。

4

◆ 管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



CBJ522

1 ホーム

［状態］、［消耗品］、［構成］、［カウンター］の各タブが表示され、ワークエリアに詳細情報が表示されます。

2 ジョブ

印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴などの一覧表示ができます。

3 アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

4 設定

本機のシステム、インターフェース、ネットワーク、セキュリティーおよびヘルプの設定ができます。

5 リセット

トップページの［リセット］ボタンをクリックすると、本機のジョブ履歴をリセットできます。ジョブを実行中はリセットできません。

6 プリンタージョブリセット

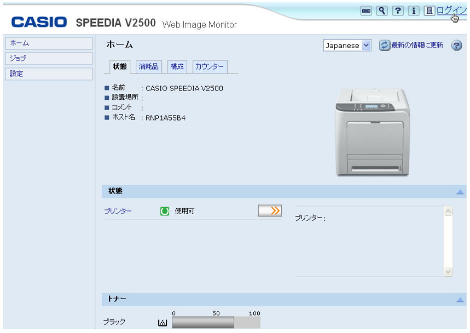
トップページの［プリンタージョブリセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

補足

- 表示や設定項目の詳細は Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

管理者モードにアクセスする

1 Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。



2 **ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。お使いのブラウザーの設定により、ログインユーザー名、ログインパスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログインユーザー名、ログインパスワードを保存しないように設定してください。

Web Image Monitor のヘルプを表示する

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法を説明します。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された?、またはワークエリアに表示された?をクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

♦ Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示された?をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示された?をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ヘルプへのアドレス（URL）リンクを設定する

パソコンのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された?のアドレス（URL）を次の手順でリンクすることができます。

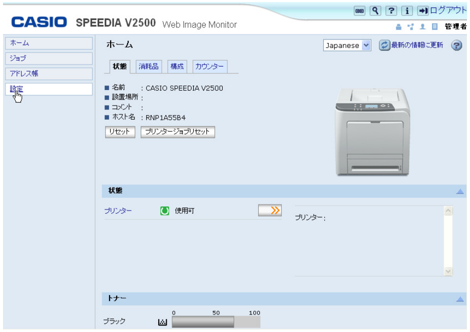
1 **同梱の CD-ROM 内のヘルプファイルを任意の場所にコピーします。**

ヘルプファイルの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D¥ の場合は、「D:¥WEBHELP」です。

2 **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

3 **メニューエリアの［設定］をクリックします。**



4 **「Webpage」カテゴリーの中の［Webpage 設定］をクリックします。**



5 [ヘルプリンク先設定] の [URL] にヘルプファイルへのパスを入力します。



例えば、C:¥HELP¥JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file://C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

6 [OK] をクリックします。

7 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

分類コードについて

4

この機能はご使用いただけません。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。
機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

重要

- メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。
- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

本機のメール通知機能は次の２種類です。

◆ 自動メール通知

あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

◆ 要求時メール通知

管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。
自動メール通知で設定できるものは、以下のとおりです。

- サービスコール
- トナーなし
- トナー残りわずか
- 用紙づまり
- カバーオープン
- 用紙なし
- 給紙トレイエラー
- 排紙先満杯
- ユニット接続エラー
- 廃トナーボトル満杯
- 廃トナーボトルもうすぐ満杯
- アクセス攻撃検知
- ユニット交換時期
- ユニット交換間近
- トナー残りわずか（残量レベル選択）

1 **本機の操作部を使用して、［システム設定］メニューの［自動メール通知］を［する］に設定します（工場出荷時は［する］に設定されています）。**

2 **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

3 **メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。**

4

4 **設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。**

- 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。P.113 「メールの認証について」を参照してください。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。P.113 「メールの認証について」を参照してください。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール受信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

5 **［OK］をクリックします。**

6 **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。**

メール通知用アカウントを設定する

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1 **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 **メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。**

3 **設定画面に示された以下の項目を設定します。**

- メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを半角の英数字で入力します。
- メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

4 **［OK］をクリックします。**

5 **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。**

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

♦ SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1) Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。
   ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。
2) メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。
3) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
   - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
   - SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
   - SMTP認証メールアドレス:使用するメールアドレスを半角の英数字で入力します。
   - SMTP 認証ユーザー名:SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に@ realmID の形式で追加してください。
   - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
   - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。
     ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
     ［有効］：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
     ［無効］：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
4) ［OK］をクリックします。
5) 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

♦ POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

1) Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。
   ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。
2) メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［メール］をクリックします。
3) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
   - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
   - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを半角の英数字で入力します。
   - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
   - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
   - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。

4) ［OK］をクリックします。
5) 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

「自動メール通知」を設定する

1 **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.108「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 **メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［自動メール通知］をクリックします。**



3 **設定画面に示された以下の項目を設定します。**

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。
  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

4 **［OK］をクリックします。**

5 **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。**

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

「要求時メール通知」を設定する

1 **Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。**

ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。

2 **メニューエリアの［設定］をクリックし、「機器」カテゴリーの中の［要求時メール通知］をクリックします。**



3 **設定画面に示された項目を設定します。**

- 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 機器状態情報通知の制限 : 機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。
  ［有効］を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。
  ［無効］を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
- 受信可能メールアドレス／ドメイン設定：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。また、メールの言語を設定できます。

4 **［OK］をクリックします。**

5 **管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。**

補足

- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式について

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。
要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
To（メールソフトでは「宛先」などと表示される部分）	[通知用メールアドレス] に設定したメールアドレスを指定します。
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順について説明します。

重要

- リモートメンテナンス（mshell）はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。
- パスワードは Web ブラウザーによる設定（Web Image Monitor）で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。
- リモートメンテナンスは、複数のユーザーで同時に使用することはできません。
- Windows Vista/7 または、Windows Server 2008/2008 R2 をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバーを有効にしてからお使いください。

1 本機の IP アドレス（またはホスト名）を引数にして telnet を起動します。

% telnet 本機の IP アドレス（またはホスト名）

2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

3 コマンドを入力します。

4 telnet を終了します。

```
msh> logout
```

設定を変更すると、変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Return]（[Enter]）キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Return]（[Enter]）キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Return]（[Enter]）キーを押します。

補足

- 「Cannot write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。
- リセットしても、Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

4

8021x

IEEE 802.1x 関連パラメーターの表示や設定は 8021x コマンドを使用します。

◆ 関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

```
msh> 8021x
```

◆ EAP タイプおよびフェイズ 2 メソッドの指定

```
msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}
```

- 最後の引数は、その前の引数で [ttls] を指定した場合には [chap][mschap][mschapv2][pap][md5] が、[peap] を指定した場合には [mschapv2][tls] が指定できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ フェイズ 2 ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username2 ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ドメイン名の指定

```
msh> 8021x domain ドメイン名
```

- ドメイン名は、[@] と [¥] を除いた半角英数と表示可能な半角記号で最大 64 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ パスワードの指定

```
msh> 8021x password パスワード
```

- パスワードは、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー証明書の認証を設定

```
msh> 8021x srvcert {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可を指定

```
msh> 8021x imca {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー ID の指定

```
msh> 8021x srvid サーバー ID
```

- サーバー ID は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サブドメイン許可の指定

```
msh> 8021x subdomain {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ユーザー名の消去

```
msh> 8021x clear username
```

♦ フェイズ 2 ユーザー名の消去
```
msh> 8021x clear username2
```

♦ ドメイン名の消去
```
msh> 8021x clear domain
```

♦ パスワードの消去
```
msh> 8021x clear password
```

♦ サーバー ID の消去
```
msh> 8021x clear srvid
```

♦ IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化
```
msh> 8021x clear all
```

- 初期化しても IEEE 802.1X 認証有効化設定（イーサネットインターフェース、拡張無線 LAN ボード共に）は消去されません。

補足

- wiconfig コマンドについては、P.144 「wiconfig」を参照してください。

access

アクセスコントロールの表示や設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

♦ 現在の設定の表示
```
msh> access
```

♦ IPv4 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）
```
msh> access 対象 ID range
```

♦ IPv6 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）
```
msh> access 対象 ID range6
```

♦ IPv6 アクセスマスクの表示（エントリー番号指定）
```
msh> access 対象 ID mask6
```

♦ IPv4 のアクセスレンジの設定
```
msh> access 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```
（例）アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する
```
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

♦ IPv6 のアクセスレンジの設定
```
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```
（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する
```
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

♦ IPv6 のアクセスマスクの設定
```
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```
（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する
```
msh> access 対象 ID mask6 2001:DB8:: 32
```

◆ アクセスコントロールの初期化

```
msh> access flush
```

- アクセスコントロールの初期化は、IPv4 と IPv6 のすべてのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻します。

補足

- IPv6 の各エントリーは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式の場合は、" 始点アドレス - 終点アドレス "、マスク指定方式の場合は、" 基準アドレス / マスク長 " という形式で表示されます。
- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1〜5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1〜128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

4

authfree

認証限定制御の情報表示や設定は authfree コマンドを使用します。

◆ 現在の認証限定情報を表示

```
msh> authfree
```

◆ IPv4 ／ IPv6 の認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID
```

◆ IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID range
```

◆ IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID range6
```

◆ IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID mask6
```

◆ 認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定

```
msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

◆ 認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定

```
msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

♦ 認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

```
msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID mask6 2001:DB8:: 32
```

♦ IEEE1284 ／ USB の認証限定を設定

```
msh> authfree {parallel|usb} {on|off}
```

- 認証しない場合は「on」を、する場合は「off」を指定します。
- 工場出荷時の設定値は「off」です。

♦ 認証限定の初期化

```
msh> authfree flush
```

- 認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

補足

- authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「簡易（限定）」に設定されているときのみ実行可能です。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1 〜 5 の 5 件が設定できます。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> autonet
```

♦ AutoNet 機能の設定

```
msh> autonet {on|off}
```

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

♦ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> autonet priority
```

♦ インターフェースの優先設定

```
msh> autonet priority インターフェース名
```

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- 工場出荷時の設定値は「ether」です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無にかかわらず、現在の優先順位が表示されます。

bonjour

Bonjour 関連の表示や設定は、bonjour コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> bonjour
```

♦ サービス名の設定

```
msh> bonjour cname 文字列
```

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ 設置場所情報の設定

```
msh> bonjour location 文字列
```

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ プロトコルごとの優先順位の設定

```
msh> bonjour diprint [0~99]
msh> bonjour lpr [0~99]
msh> bonjour ipp [0~99]
```

- diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。工場出荷時の設定値は「diprint 10」、「lpr 20」、「ipp 30」です。

♦ IP TTL 値の設定

```
msh> bonjour ipttl [1~255]
```

- IP TTL 値（越えられるルーターの数）を設定します。工場出荷時の設定値は「255」です。

♦ サービス名と設置場所情報のリセット

```
msh> bonjour clear {cname|location}
```

- cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
- location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

♦ インターフェースの設定

```
msh> bonjour linklocal インターフェース名
```

- インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
- 複数のインターフェースが装着されている場合に、linklocal アドレスとの通信を行うインターフェースを設定します。
- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ IPP Advertising Port 番号の選択

```
msh>bonjour ippport {ipp|ssl}
```

- ssl の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 443 として広告します。
- ipp の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 631 として広告します。

devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

♦ 本体名の設定

```
msh> devicename name 本体名
```

- 本体名は 31 バイト以下で指定します。
- 1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

♦ 本体名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

- 本体名を工場出荷時の設定に戻します。

dhcp

DHCP の表示や設定は、dhcp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

♦ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース名 {on|off}
```

- DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

♦ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース名
```

- DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

♦ DNS サーバーアドレスの選択

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

4

◆ **ドメイン名の選択**

```
msh> dhcp インターフェース名 domainname {dhcp|static}
```

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

補足

- dns については P.125 「dns」を参照してください。
- domainname については P.126 「domainname」を参照してください。
- DHCP については P.123 「dhcp」を参照してください。

dhcp6

DHCPv6 の表示や設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

◆ **DHCPv6 情報の表示**

```
msh> dhcp6
```

◆ **DHCPv6-lite の有効・無効の設定と表示**

```
msh> dhcp6 インターフェース名 lite {on|off}
```

- DHCPv6-lite を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

◆ **DNS サーバーアドレスの選択（DHCPv6 サーバーからの取得値・ユーザー設定値）の設定と表示**

```
msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}
```

◆ **DUID（DHCP ユニーク ID）の削除と表示**

```
msh> dhcp6 duid clear
```

◆ **DHCPv6 で取得したパラメーターを再度取得するまでの時間の設定と表示**

```
msh> dhcp6 option lifetime [0〜65535]
```

- 設定範囲は 0 から 65535 分です。
- 工場出荷時の設定値は「60（分）」です。
- 0 をセットすると再取得することができません。

diprint

コンピューターから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示や設定は、diprint コマンドを使用します。

◆ **現在の設定の表示**

```
msh> diprint
```

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
timeout = 300 (sec)
bidirect on conn multi
apl async
```

- 「port」使用するポート番号が表示されます。
- 「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

♦ タイムアウトの設定

```
msh> diprint timeout [30～65535]
```

- ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- 工場出荷時の設定値は「300（秒）」です。
- lpr コマンドにおいても、ここで設定した時間が適用されます。

♦ 双方向通信の設定

```
msh> diprint bidirect {on|off}
```

- 双方向通信を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 工場出荷時の設定値は「on」です。

♦ 同時接続数の設定

```
msh> diprint conn {multi|single}
```

- diprint の同時接続数を multi（複数）か single（1）か設定します。
- 工場出荷時の設定値は「multi」です。

dns

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> dns
```

♦ IPv4 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server DNS サーバーアドレス
```

- IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1～3 までです。3 件まで登録できます。
- DNS サーバーアドレスには、「255.255.255.255」を設定できません。

♦ IPv6 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server6 DNS サーバーアドレス
```

- IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1～3 の 3 件まで登録できます。

♦ ダイナミック DNS 機能の設定

```
msh> dns  インターフェース名 ddns {on|off}
```

- ダイナミック DNS 機能の有効／無効を指定します。
- ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ レコード重複時の動作指定

```
msh> dns overlap {update|add}
```

- レコードが重複したときの動作を指定します。
- update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

♦ **CNAME の登録**

```
msh> dns cname {on|off}
```

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

♦ **A レコードの登録**

```
msh> dns arecord {dhcp|own}
```

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバーが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「dhcp」で指定した「DNS サーバーアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

♦ **レコードの更新間隔の設定**

```
msh> dns interval 更新間隔時間
```

- ダイナミックDNS機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1〜255 の間で指定します。
- 工場出荷時の設定値は「**24（時間）**」です。

4

♦ **resolv.conf の表示**

```
msh> dns resolv
```

- resolv.conf の表示を行います。

♦ **デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに利用するプロトコルの設定**

```
msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}
```

- デュアルスタック時のみ表示されます。

domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> domainname
```

♦ **現在の各インターフェースのドメイン名表示**

```
msh> domainname インターフェース名
```

♦ **各インターフェースのドメイン名設定**

```
msh> domainname インターフェース名 name ドメイン名
```

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードは同じドメイン名になります。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

♦ **各インターフェースのドメイン名削除**

```
msh> domainname インターフェース名 clear name
```

etherauth

イーサネットインターフェースでの認証関連パラメーターの表示や設定は、etherauth コマンドを使用します。

♦ **認証関連パラメーターの表示**

```
msh> etherauth
```

♦ **イーサーネットインターフェースでの IEEE 8021.X 認証の設定**

```
msh> etherauth 8021x {on|off}
```

- イーサーネットインターフェースでの IEEE 8021.X 認証を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 工場出荷時の設定値は「off」です。

etherconfig

イーサネットインターフェース速度の表示や設定の変更は、etherconfig コマンドを使用します。

♦ **現在の設定値の表示**

```
msh> etherconfig
```

♦ **イーサネットインターフェース速度の設定**

```
msh> etherconfig speed {auto|10f|10h|100f|100h}
```

- auto = 自動
- 10f = 10 Mbps 全二重
- 10h = 10 Mbps 半二重
- 100f = 100 Mbps 全二重
- 100h = 100 Mbps 半二重

工場出荷時の設定値は「auto」です。

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

♦ **コマンド一覧の表示**

```
msh> help
```

♦ **コマンド使用方法の表示**

```
msh> help コマンド名
```

hostname

ホスト名の表示や変更は、hostname コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> hostname
```

4

◆ 各インターフェースのホスト名の設定

```
msh> hostname インターフェース名 name ホスト名
```

- ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
- イーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードは同じホスト名になります。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- インターフェース名を省略した場合、イーサネットインターフェースのホスト名が設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ 各インターフェースのホスト名の初期化

```
msh> hostname インターフェース名 clear name
```

ifconfig

TCP/IP の IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示や設定、およびデフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ifconfig
```

◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 アドレス
```

- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

（例）イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

◆ IPv6 アドレスの設定

```
msh>ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長
```

（例）イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

```
msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64
```

◆ ネットマスクの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス
```

（例）イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

```
msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0
```

◆ ブロードキャストアドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 broadcast アドレス
```

♦ インターフェース切り替え

```
msh> ifconfig インターフェース名 up
```

- 拡張無線 LAN ボード接続時に、イーサネットインターフェースと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

（例）接続時にイーサネットインターフェースを使用する

```
msh> ifconfig ether up
```

補足

- 設定するアドレスは管理者に確認してください。
- 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- IP　アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、拡張無線 LAN ボード共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- IPv4 アドレスを 16 進数形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

♦ 機器情報の表示

```
msh> info
```

補足

- 確認できる機器の情報については、P.149「ネットワーク経由で確認できる情報」を参照してください。

ipp

IPP の使用環境の表示や設定は、ipp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> ipp
```

♦ タイムアウトの設定

```
msh> ipp timeout [30〜65535]
```

- 印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30〜65535 秒です。

♦ IPP ユーザー認証方式の設定

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

- IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- basic または digest で、認証を行います。
- ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

♦ IPP ユーザー名の登録

```
msh> ipp user
```

メッセージにしたがって設定します。

```
msh> Input user number (1 to 10) :
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
msh> IPP password:*******
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
IPP configuration changed.
```

ipsec

IPsec 関連パラメーターの表示や設定は、ipsec コマンドを使用します。

♦ 関連パラメーターの表示

```
msh> ipsec
```

補足

- IPsec の詳細については、管理者に問い合わせてください。

4

ipv6

IPv6 の使用環境の表示や設定は、ipv6 コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> ipv6
```

♦ ステートレスアドレスの有効／無効設定

```
msh> ipv6 stateless {on|off}
```

- IPv6 ステートレスアドレスを有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

logout

telnet の終了には logout コマンドを使用します。

♦ telnet の終了

```
msh> logout
```

確認メッセージが表示されます。

```
{yes|no|return}
```

[yes][no][return] のいずれかをフルスペルで入力してください。

- [yes] と入力すると、telnet が終了します。
- [no] と入力すると、telnet が続行します。
- [return] と入力すると、logout の再設定になります。

lpr

LPR の使用環境の表示や設定は、lpr コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> lpr
```

♦ ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかった場合はジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は「on」です。

♦ プリンターエラー検知機能対応の有効 / 無効設定

```
msh> lpr prnerrchk {on|off}
```

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信してしまうことがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません。
- 工場出荷時の設定値は「off」です。

4

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

♦ パスワードの変更

```
msh> passwd
```

- [Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

♦ スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

```
msh> passwd 管理者 ID
```

- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

補足

- パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- パスワードは、半角英数字と表示可能な半角記号で、最大 32 文字入力できます。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

Path MTU Discovery サービス機能の表示や設定は、pathmtu コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> pathmtu
```

◆ **Path MTU Discovery サービス有効 / 無効の切り替え設定**

```
msh> pathmtu {on|off}
```

- 工場出荷時の設定値は「on」です。
- 送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「on」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- 環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「off」にして、Path MTU Discovery サービスを無効にしてください。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

◆ **プリントログ情報の表示**

```
msh> prnlog
```

- これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog ID 番号
```

- 表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

4

補足

- 確認できる機器の情報については、P.149「ネットワーク経由で確認できる情報」を参照してください。

rhpp

RHPP プロトコル情報の表示や設定は rhpp コマンドを使用します。

◆ **現在の設定の表示**

```
msh> rhpp
```

◆ **使用するポート番号の変更**

```
msh> rhpp port [1024～65535]
```

工場出荷時の設定値は「59100」です。

◆ **タイムアウトの設定（秒）**

```
msh> rhpp timeout [30～65535]
```

工場出荷時の設定値は「300（秒）」です。

補足

- RHPP は RICOH Host Print Protocol の略で、リコー独自のプロトコルです。

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示や設定は、route コマンドを使用します。

♦ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。
- destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。
- destination 省略時はすべてのルート情報を表示します。

♦ 指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} destination {on|off}
```

- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。
- 指定した destination を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

♦ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} destination gateway
```

- destination で表される host（または network）ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

♦ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default gateway
```

- gateway は IPv4 のアドレスを指定します。

♦ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} destination
```

- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

♦ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default gateway
```

- gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ 指定された IPv6 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 destination prefixlen gateway
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。
- 宛先は prefixlen が 1〜127 の場合はネットワーク指定、128 の場合はホスト指定となります。
- destination と prefixlen の両方が登録済みレコードと一致する場合は登録できません。
- destinationが::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000)のレコードは登録できません。

♦ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。
- destination と prefixlen の両方が一致したレコードを削除します。

4

♦ IPv6 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get6 {destination}
```

・destination は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ 指定された IPv6 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active6 destination prefixlen {on|off}
```

・destination は IPv6 のアドレスを指定します。
・指定した destination を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
・destination と prefixlen の両方が一致したレコードを変更します。

♦ 全 route 情報の削除設定

```
msh> route flush
```

補足

・IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
・IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
・ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
・ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
・prefixlen は 1〜128 の 10 進数を指定します。

set

プロトコルの情報の表示、有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

♦ デバイスの情報（有効／無効）の表示

```
msh> set usb
msh> set device
```

♦ デバイスの有効／無効の設定

・デバイスを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

```
msh> set usb {up|down}
```

♦ プロトコルの情報（有効／無効）の表示

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set ipsec
msh> set appletalk
msh> set smb
msh> set protocol
```

・protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、smb、ipsec の情報を表示します。

```
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
```

```
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ssl6
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set bonjour
msh> set bonjour6
msh> set nbt
msh> set ssdp
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
msh> set wsdev
msh> set wsdev6
msh> set wsprn
msh> set rhpp
msh> set rhpp6
msh> set lltd
```


♦ プロトコルの有効／無効の設定

- プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

- IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- IPv4 を無効にすると lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、rfu、rhpp、ipp、http、bonjour、wsdev も使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

- IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6、bonjour6、wsdev6、rhpp6 も使用できなくなります。

```
msh> set ipsec {up|down}
msh> set appletalk {up|down}
msh> set smb {up|down}
msh> set lpr {up|down}
msh> set lpr6 {up|down}
msh> set ftp {up|down}
msh> set ftp6 {up|down}
```

```
msh> set rsh {up|down}
msh> set rsh6 {up|down}
msh> set diprint {up|down}
msh> set diprint6 {up|down}
msh> set web {up|down}
msh> set snmp {up|down}
msh> set ssl {up|down}
msh> set ssl6 {up|down}
```

- 本機に SSL（暗号化通信）の機能がない場合は、有効に設定しても SSL（暗号化通信）を使用することはできません。

```
msh> set nrs {up|down}
msh> set rfu {up|down}
msh> set rfu6 {up|down}
msh> set ipp {up|down}
msh> set ipp6 {up|down}
msh> set http {up|down}
msh> set http6 {up|down}
msh> set bonjour {up|down}
msh> set bonjour6 {up|down}
msh> set ssh {up|down}
msh> set ssdp {up|down}
msh> set nbt {up|down}
msh> set sftp {up|down}
msh> set sftp6 {up|down}
msh> set wsdev {up|down}
msh> set wsdev6 {up|down}
```

- wsdev と wsdev6 が共に有効の場合、プロトコル情報の表示では共に「up」と表示されますが、WSD （Device）と WSD （Printer）は IPv4 で動作します。

```
msh> set wsprn {up|down}
msh> set rhpp {up|down}
msh> set rhpp6 {up|down}
msh> set lltd {up|down}
```

補足

- WSD （Printer）と WSD （Device）を IPv6 で動作させたい場合は、"wsdev down""wsdev6 up" と設定します。

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> show
```

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB　プロトコルでコンピューター、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

4

補足

- 確認できる設定情報については、P.156 「ネットワークインターフェースボードの情報」を参照してください。

smb

コンピューター名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定や削除は、smb コマンドを使用します。

♦ コンピューター名の設定

```
msh> smb comp コンピューター名
```

- 半角英数 15 文字以下で設定します。
- RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざっていると設定できません。

♦ ワークグループ名の設定

```
msh> smb group ワークグループ名
```

- 半角英数 15 文字以下で設定します。

♦ コメントの設定

```
msh> smb comment コメント
```

- 半角英数 31 文字以下で設定します。

♦ 印刷完了通知の設定

```
msh> smb notif {on|off}
```

- 印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

♦ コンピューター名の削除

```
msh> smb clear comp
```

♦ グループ名の削除

```
msh> smb clear group
```

♦ コメントの削除

```
msh> smb clear comment
```

♦ プロトコルの表示

```
msh> smb protocol
```

♦ SMB クライアント優先ポートの表示

```
msh> smb client port
```

♦ SMB クライアント優先ポートの設定

```
msh> smb client port {139|445}
```

- 優先ポートとして指定できるのは 139、445 のみです。

♦ SMB クライアント認証レベルの表示

```
msh> smb client auth
```

♦ SMB クライアント認証レベルの設定

```
msh> smb client auth {0|1}
```

- 認証レベルは 0 と 1 のどちらかを指定します。

snmp

コミュニティー名など SNMP に関する表示や設定は、snmp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> snmp
```

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  コミュニティー名：public
  IPv4 アドレス：0.0.0.0
  IPv6 アドレス：::
  アクセスタイプ：read-only
  有効プロトコル：IPv4/IPv6
- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  コミュニティー名：ricoh
  IPv4 アドレス：0.0.0.0
  IPv6 アドレス：::
  アクセスタイプ：read-write
  有効プロトコル：IPv4/IPv6
- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティー設定内容を表示します。

4

♦ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

♦ コミュニティー名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティー名
```

- 設定できる登録番号は 1〜10 です。
- コミュニティー名は英数半角 15 文字以下で設定します。

♦ コミュニティー名の削除

```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

♦ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません（not accessible）
read	情報の読み出しのみ可能（read-only）
write	情報の読み出しと書き込みが可能（read-write）
trap	エラー情報を通知（trap）

♦ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6} {on|off}
```

- 使用可能なプロトコルを選択します。
- プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません

♦ 登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

- 登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

♦ 登録番号ごとのアドレスの設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6} アドレス
```

- 使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- 「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- 「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを入力します。

♦ sysLocation の設定

```
msh> snmp location 文字列
```

♦ sysLocation の削除

```
msh> snmp clear location
```

♦ sysContact の設定

```
msh> snmp contact 文字列
```

♦ sysContact の削除

```
msh> snmp clear contact
```

♦ SNMP v1v2 機能の設定

```
msh> snmp v1v2 {on|off}
```

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ SNMP v3 機能の設定

```
msh> snmp v3 {on|off}
```

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ SNMP TRAP の設定

```
msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}
```

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ リモート設定許可の設定

```
msh> snmp remote {on|off}
```

- SNMP v1, v2 での設定を有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ SNMP v3 TRAP の設定値の表示

```
msh> snmp v3trap [1～5]
```

- 1～5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

♦ SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定

```
msh> snmp v3trap [1～5] {ipv4|ipv6} アドレス
```

♦ SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定

```
msh> snmp v3trap [1～5] active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] account アカウント名

- アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除

msh> snmp v3trap [1〜5] clear account

◆ SNMP v3 暗号アルゴリズムの設定

msh> snmp v3auth {md5|sha1}

◆ SNMP v3 暗号化の設定

msh> snmp v3priv {auto|on}

- auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
- on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

補足

- 暗号化可能な場合とは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。

sntp

SNTP の表示や設定は、sntp コマンドを使用します。

4

◆ 現在の設定の表示

msh> sntp

◆ NTP サーバーの IPv4 アドレスの設定

msh> sntp server アドレス

◆ NTP サーバーのホスト名の設定

msh> sntp server ホスト名

◆ NTP サーバーの設定のクリア

msh> sntp server clear

◆ インターバルの設定

msh> sntp interval インターバル値

- 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は「60（分）」です。
- 設定できる値は 0、15〜10080（分）です。
- 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

◆ タイムゾーンの設定

msh> sntp timezone +/−時間

- NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は−12:00〜+13:00 です。

補足

- NTP サーバーには IPv4 アドレスまたはホスト名のどちらか一方のみ設定できます。

spoolsw

スプール印刷の表示や設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB（TCP/IP(IPv4)）、WSD（Printer）、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> spoolsw
```

♦ スプール印刷機能の設定

```
msh> spoolsw spool {on|off}
```

・スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
工場出荷時の設定値は「off」です。

♦ ジョブの初期化の設定

```
msh> spoolsw clearjob {on|off}
```

・スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、本機の電源を再投入したときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off の場合はジョブを初期化せずに印刷を再開します。
・工場出荷時の設定値は「off」です。

♦ プロトコルの設定

```
msh> spoolsw diprint {on|off}
msh> spoolsw lpr {on|off}
msh> spoolsw ipp {on|off}
msh> spoolsw smb {on|off}
msh> spoolsw ftp {on|off}
msh> spoolsw sftp {on|off}
msh> spoolsw wsprn {on|off}
```

・プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。
・工場出荷時の設定値はすべて「on」です。

ssdp

SSDP 関連パラメーターの表示や設定は、ssdp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> ssdp
```

♦ 有効時間の設定

```
msh> ssdp profile [1801～86400]
```

・工場出荷時の設定値は「10800（秒）」です。

♦ Advertise パケットの TTL の設定

```
msh> ssdp ttl [1～255]
```

・工場出荷時の設定値は「4」です。

ssh

SSH および SFTP 関連パラメーターの表示や設定は、ssh コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の一覧表示

```
msh> ssh
```

♦ データ圧縮通信の設定

```
msh> ssh compression {on|off}
```

- 工場出荷時の設定値は「on」です。

♦ ssh ／ sftp で通信するポートの設定

```
msh> ssh port [22,1024〜65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「22」です。

♦ ssh ／ sftp で通信する際のタイムアウト確認（生存確認）の時間設定

```
msh> ssh timeout [0〜65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「300（秒）」です。

♦ ssh ／ sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

```
msh> ssh logintimeout [0〜65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「300（秒）」です。

4

♦ ssh ／ sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長（Keylength）の作成

```
msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列（salt）
```

- 工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長（Keylength）が「1024」、複雑化文字列は「NULL（無）」です。
- 使用できる文字列は、ASCII（0x20〜0x7e）文字列です。
- パラメーター省略時は初期値で公開鍵を作成します。

♦ ssh ／ sftp で通信する際の公開鍵の削除

```
msh> ssh delkey
```

補足

- 設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。
- ssh を使用できるのは sftp のみです。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

♦ 表示

```
msh> status
```

補足

- 表示される情報については P.149 「ネットワーク経由で確認できる情報」を参照してください。

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

♦ メッセージの表示

```
msh> syslog
```

補足

- 表示されるメッセージについては、P.164 「メッセージ一覧」を参照してください。

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示や設定は、upnp コマンドを使用します。

♦ 公開 URL の表示

```
msh> upnp
```

♦ 公開 URL の設定

```
msh> upnp url URL
```

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

4

web

Web Image Monitor 関連の表示や設定は、web コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> web
```

♦ リンク先として登録する URL の設定

```
msh> web x url URL
```

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。2 件まで登録できます。
- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

♦ リンク先として登録されている URL を削除する

```
msh> web x clear url
```

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

♦ リンク先として登録する URL のリンク名の設定

```
msh> web x name リンク名
```

- x は対象番号の 1〜2 を指定します。2 件まで登録できます。

♦ リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

```
msh> web x clear リンク名
```

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

♦ ヘルプの参照先 URL の設定

```
msh> web help URL
```

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

♦ ヘルプの参照先 URL を削除する

```
msh> web clear help
```

wiconfig

無線 LAN の表示や設定は、wiconfig コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> wiconfig
```

♦ 拡張無線 LAN ボードの情報の表示

```
msh> wiconfig cardinfo
```

- 拡張無線 LAN ボードが有効になっていない場合、拡張無線 LAN ボードの情報は表示できません。

♦ 設定

```
msh> wiconfig パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
connectinfo	コネクト情報を取得します。
clear { 各コマンド 1 つ ｜ all}	指定されたコマンドの設定値を初期化します。all を指定するとすべての設定値を初期化します。
mode {ap|802.11adhoc}	インフラストラクチャーモード（ap）または 802.11 アドホックモード（802.11 adhoc）の設定ができます。工場出荷時の設定値は「ap」です。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。工場出荷時の設定値は空白です。
channel frequency チャンネル番号	802.11 adhoc モードで使用するチャンネルは、1 〜 14、36、40、44、48 の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。工場出荷時の設定値は「11」です。

4

パラメーター	設定される項目
key 文字列 val {1|2|3|4}	WEPキーを16進数で入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x を付けます。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。工場出荷時の設定値は空白です。
keyphrase 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用する場合には、13 文字までの半角英数字が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。工場出荷時の設定値は空白です。
encval {1|2|3|4}	4つのWEPキーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。 番号を指定しない場合は 1 が設定されます。
wepauth {open|shared}	WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定値と認証モードは次のとおりです。 open：オープンシステム認証（工場出荷時の設定値） shared：シェアードキー認証
security {none|wep|wpa}	セキュリティー方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none: 暗号化なし（工場出荷時の設定値） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式

4

パラメーター	設定される項目
wpaenc {tkip|ccmp}	WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。 設定値は次のとおりです。 tkip:TKIP ccmp:CCMP(AES)（工場出荷時の設定値）
wpaauth {wpapsk|wpa|wpa2psk|wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk：WPA-PSK 認証（工場出荷時の設定値） wpa：WPA 認証 wpapsk2：WPA2-PSK 認証 wpa2 ：WPA2 認証
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 8 文字から 63 文字までです。工場出荷時の設定値は空白です。
eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls :EAP-TLS （工場出荷時の設定値） ttls：EAP-TTLS leap：LEAP peap：PEAP {chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls} はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択するときに同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。 「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。 「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバーへのログインユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。 工場出荷時の設定値は空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。 工場出荷時の設定値は空白です。

4

パラメーター	設定される項目
domain 文字列	Radius サーバーへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と"@"と"¥"(0x5C:バックスラッシュ)以外の表示可能な半角記号(ASCII 0x20〜0x7e)で 64 文字までです。工場出荷時の設定値は空白です。
password 文字列	Radius サーバーへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号(ASCII 0x20〜0x7e)で 128 文字までです。工場出荷時の設定値は空白です。
srvcert {on|off}	サーバー証明書の認証を設定します。 工場出荷時の設定値は「off」です。
imca {on|off}	サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 工場出荷時の設定値は「off」です。
srvid 文字列	認証サーバーをサーバー ID およびサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号(ASCII 0x20〜0x7e)で 128 文字までです。工場出荷時の設定値は空白です。
subdomain {on|off}	サブドメイン許可の設定ができます。 工場出荷時の設定値は「off」です。
miccheck [on|off] *1	MIC チェックを有効にするかどうかを設定します。 工場出荷時の設定値は「on」です。 off に設定すると改ざん検出が一切できなくなります。on の設定で使用することお勧めします。

*1 拡張無線 LAN ボードの装着されている場合にのみ、使用可能です。

4

wins

WINS サーバーの表示や設定は、wins コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wins
```

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

◆ WINS 機能の設定

```
msh> wins インターフェース名 {on|off}
```

- WINS 機能を有効にするには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェース名を必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ WINS サーバーのアドレス設定

```
msh> wins インターフェース名 {primary|secondary} IPv4 アドレス
```

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

◆ NBT（NetBIOS over TCP/IP）スコープ ID の設定

```
msh> wins インターフェース名 scope スコープ ID
```

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェース名を必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

wsmfp

WSD (Device)、WSD (Printer) の表示や設定は、wsmfp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wsmfp
```

◆ コメントの設定

```
msh> wsmfp comments 文字列
```

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ ロケーションの設定

```
msh> wsmfp location 文字列
```

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ **プレゼンテーション URL の設定**

```
msh> wsmfp url URL
```

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ **WSD (Device) の TCP ポートの設定**

```
msh> wsmfp devport [1024-65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「53000」です。

◆ **WSD (Printer) の TCP ポートの設定**

```
msh> wsmfp prnport [1024-65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「53001」です。

◆ **WSD (Printer) の受信タイムアウト（秒）の設定**

```
msh> wsmfp prntimeout [30～65535]
```

- 工場出荷時の設定値は「900（秒）」です。

◆ **コメントを初期化する**

```
msh> wsmfp clear comments
```

◆ **ロケーションを初期化する**

```
msh> wsmfp clear location
```

◆ **プレゼンテーション URL を初期化する**

```
msh> wsmfp clear url
```


ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目について説明します。

★ 重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機器やオプションによっては、表示されないステータスがあります。

- mshell の場合
  status コマンドを使います。

ステータス	意味
Adjusting...	初期設定中です。
Color Registration Failed	色ずれ補正に失敗しました。
Call Service Center	エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。サービス実施店に連絡してください。
Cover Open: Front Cover	本体前カバーが開いています。
Cover Open: Front/Left Cover	本体前カバーまたは、上カバーが開いています。
Cover Open: Top	本体上カバーが開いています。

ステータス	意味
Current Job Suspended	印刷が停止しています。
Empty: Black Toner	ブラックトナーがなくなりました。
Empty: Cyan Toner	シアントナーがなくなりました。
Empty: Magenta Toner	マゼンタトナーがなくなりました。
Empty: Yellow Toner	イエロートナーがなくなりました。
Energy Saver Mode	省エネモード中です。
Error: Ethernet Board	イーサネットボードに異常が発生しました。
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: Optional RAM	オプションの SDRAM モジュールにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生しました。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新中にエラーが発生しました。
Error: USB Interface	USB インターフェースにエラーが発生しました。
Error: Wireless Card	起動時に拡張無線LANボードがありませんでした。 拡張無線 LAN ボードが起動後に抜かれました。 装着している拡張無線LANボードがサポート外です。
Error: Wireless Board	拡張無線 LAN ボードにエラーが発生しました。
Full: Log Data Capacity	ログデータがもうすぐ満杯です。
Full: Standard Tray	本体排紙トレイが満杯です。
Full: Waste Toner	廃トナーが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
Independent-supplier Toner	純正でないトナーがセットされています。
Jobs Suspended	一時停止中です。
Loading Toner...	トナー補給中です。
Low: Black Toner	ブラックトナーが残り少なくなりました。
Low: Cyan Toner	シアントナーが残り少なくなりました。
Low: Magenta Toner	マゼンタトナーが残り少なくなりました。
Low: Yellow Toner	イエロートナーが残り少なくなりました。
Malfunction: Tray 1	給紙トレイ 1 に異常が発生しました。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。 または、自動トレイ選択を指定しているとき、指定の用紙種類とサイズがありません。

ステータス	意味
Mismatch: Paper Size/Image Size	トレイから給紙された紙のサイズが画像サイズと異なります。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。
Near Replacing: Black PCU	ブラック感光体ドラムユニットの交換が間近になりました。
Near Replacing: Color PCU	ブラック感光体ドラムユニットの交換が間近になりました。
Near Replacing: Fusing Unit	定着ユニットの交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Int. Transfer	中間転写ユニットの交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Maintenance Kit	メンテナンスキットの交換時期です。
Near Replacing: Transfer Unit	中間転写ユニットの交換時期が間近になりました。
Nearly Full: Log Data Capacity	ログデータがもうすぐ満杯です。
Nearly Full: Waste Toner	廃トナーがもうすぐ満杯です。
No Paper: Selected Tray	指定されたトレイに用紙がありません。
No Paper: Tray 1	トレイ 1 に用紙がありません。
No Paper: Tray 2	トレイ 2 に用紙がありません。
Not Detected: Black Toner	ブラックトナーが正しくセットされていません。
Not Detected: Cyan Toner	シアントナーが正しくセットされていません。
Not Detected: Fusing Unit	定着ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Input Tray	給紙トレイが正しくセットされていません。
Not Detected: Magenta Toner	マゼンタトナーが正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (C)	感光体ドラムユニット（シアン）が正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (K)	感光体ドラムユニット（ブラック）が正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (M)	感光体ドラムユニット（マゼンタ）が正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (Y)	感光体ドラムユニット（イエロー）が正しくセットされていません。
Not Detected: Transfer Unit	中間転写ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 1	トレイ 1 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 2	トレイ 2 が正しくセットされていません。
Not Detected: Yellow Toner	イエロートナーが正しくセットされていません。
Not Detected:Int. Transfer Unit	中間転写ユニットがない、または正しくセットされていません。

ステータス	意味
Not Detected: WasteToner Bottle	廃トナーボトルが正しくセットされていません。
Offline	プリンターがオフライン状態です。
Panel Off Mode	予熱モード状態です。
Paper Misfeed: Duplex Feed Unit	両面ユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Input Tray	給紙トレイで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Internal/Output	本体内部で紙づまりが発生しました。
Proxy Address/Port Incorrect	プロキシアドレス、またはポート番号が不正です。
Proxy User/Password Incorrect	プロキシユーザー名またはパスワードが不正です。
Replace Black PCU	感光体ドラムユニット（ブラック）の交換時期です。
Replace Fusing Unit	定着ユニットの交換時期です。
Replace Int. Transfer Unit	中間転写ユニットの交換時期です。
Replace Maintenance Kit	メンテナンスキットの交換時期です。
Replace PCU (Color)	カラー感光体ドラムユニットの交換時期です。
Replace Transfer Unit	中間転写ユニットの交換時期です。
Tray Error: Duplex Printing	両面禁止トレイに両面印刷を指定したため、両面印刷設定トレイエラーが発生しました。
Warming Up...	準備中です。
W.T.Bttl.notDetected/L.Cvr.Open	左カバーが開いている。または、廃トナーボトルがセットされていません。

補足

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、お使いの機器の使用説明書を参照してください。
- コマンドについては、P.129 「info」を参照してください。

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と項目について説明します。

- mshell の場合
  info コマンドを使います。

Input Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。

項目名	内容
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
Page Size	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 ・Normal：正常 ・NoInputTray：トレイなし ・PaperEnd：用紙なし

Output Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 ・Normal：正常 ・PaperExist：用紙あり ・OverFlow：用紙が満杯 ・Error：その他エラー

Emulation

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

補足

・コマンドについては、P.129 「info」を参照してください。

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得することができる情報について説明します。

重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

4

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目について説明します。

• mshell の場合
  status コマンドを使います。

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 • Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 • 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。*1

*1 複数のファイルを1ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

4

補足

• コマンドについては、P.129 「info」を参照してください。

プリントログ情報

これまでに印刷した過去 20 件分のジョブ記録の確認方法と、表示される項目について説明します。

• mshell の場合
  prnlog コマンドを使います。

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	通信結果が表示されます。 • Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 • Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 • Canceled 印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。

項目名	意味
Time	印刷要求の受付時間が表示されます。

補足

- コマンドについては、P.129「info」を参照してください。

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目について説明します。お使いの機器によっては、表示されない項目があます。

- mshell の場合

  show コマンドを使います。

項目名	意味
Common	
Mode	
Protocol Up/Down	プロトコル利用設定
AppleTalk	
IPv4	
IPv6	
IPsec	
SMB	
Device Up/Down	デバイス利用設定
USB	
Ethernet interface	
Syslog priority	
NVRAM version	
Device name	
Comment	
Location	
Contact	
Soft switch	
AppleTalk	AppleTalk 関連設定
Mode	
Net	
Object	
Type	
Zone	

4

項目名	意味
TCP/IP	TCP/IP のポートアドレスなどの設定
Mode(IPv4)	
Mode(IPv6)	
ftp	
lpr	
rsh	
diprint	
web	
http	
ftpc	
snmp	
ipp	
autonet	
Bonjour	
ssl	
nrs	
rfu	
nbt	
ssdp	
ssh	
sftp	
WSD (Device)	
WSD (Printer)	
rhpp	
IPv4	
DHCP	
Address	
Netmask	
Broadcast	
Gateway	
IPv6	
Stateless	
Manual	
Gateway	
DHCPv6-lite	

項目名	意味
DUID	
DHCPv6 option lifetime	
IPsec	
Manual Mode	
Excluded Protocol	
https	
dns	
dhcp	
wins	
EncapType	
Host name	
DNS Domain	
Access Control	アクセス制限設定
IPv4	
Access Entry [X]	X は 1～5 まで設定できます。
IPv6	
Access Entry [X]	X は 1～5 まで設定できます。
SNTP Server	時刻関連設定
Time Zone	
SNTP Server polling time	
SYSLOG server	Websys 関連の設定
Home page URL1	
Home page link name1	
Home page URL2	
Home page link name2	
Help page URL	
RHPP Port	
RHPP timeout	

項目名	意味
SMB	SMB 動作／設定
Switch	
Mode	
Direct print	
Notification	
Workgroup name	
Computer name	
Comment	
Share name[1]	
Protocol	
Wireless LAN	IEEE 802.11 インターフェース動作／設定
Host Name	
Communication Mode	
SSID	
Channel	
Security	
WEP Authentication	
WEP Encryption key number	
WEP Encryption keys [X]	X は 1〜4 まで設定できます。
WPA Encryption	
WPA Authentication	
Pre-Shared Key	
User name	
Domain name	
EAP Type	
Password	
Phase 2 user name	
Phase 2 Method TTLS	
Phase 2 Method PEAP	
Server cert.	
Intermediate CA	
Server ID	
Sub domain	
MIC check	

項目名	意味
Ethernet	
802.1X Authentication	
DNS	DNS 動作／設定
IPv4	
Server[X]	X は 1～3 まで設定できます。
Selected IPv4 DNS Server	
IPv6	
Server[X]	X は 1～3 まで設定できます。
Selected IPv6 Dns Server	
Resolver Protocol	
Domain Name	
ether	
wlan	
DDNS	
ether	
wlan	
WINS	WINS 動作／設定
ether	
Primary WINS	
Secondary WINS	
wlan	
Primary WINS	
Secondary WINS	
SSDP	SSDP 動作／設定
UUID	
Profile	
TTL	

項目名	意味
Plain Only	
Paused Print	
Timeout	
Device Name	
Country	
Organization	
Branch	
Building	
Floor	
Block	
UPnP	UPnP 動作／設定
URL	
Bonjour	Bonjour（Rendezvous）動作／設定
Computer Name(cname)	
Local Hostname (ether)	
Local Hostname (wlan)	
Location	
Priority (diprint)	
Priority (lpr)	
Priority (ipp)	
IP TTL	
LinkLocal Route for Multi I/F	
IPP Port	
SNMP	SNMP 動作／設定
SNMPv1v2	
SNMPv3	
protocol	
v1Trap	
v2Trap	
v3Trap	
SNMPv1v2 Remote Setting	
SNMPv3 Privacy	

項目名	意味
ssh	ssh 動作／設定
Compression	
Port	
TimeOut	
LoginTimeOut	
AuthFree	認証除外動作／設定
IPv4	
AuthFree Entry[X]	X は 1〜5 まで設定できます。
IPv6	
AuthFree Entry[X]	X は 1〜5 まで設定できます。
USB	
LPR	
lprm check host	
lpr prnerrchk	
Certificate	
Verification	
WS-MFP	
Network Device Name	
Comments	
Location	
Presentation URL	
WSD (Device) TCP Port	
WSD (Printer) TCP Port	
WSD (Printer) Job Timeout	
MetadataVersion	
UUID	

4

項目名	意味
IEEE 802.1X	IEEE 802.1X 関連の設定
User Name	
Domain name	
EAP Type	
Password	
Phase 2 user name	
Phase 2 Method TTLS	
Phase 2 Method PEAP	
Server cert	
Intermediate CA	
Server ID	
Sub domain	
Shell mode	リモートメンテナンスツールのモード

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティーやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目について説明します。

- mshell の場合
  syslog コマンドを使います。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

add_sess_IPv4:bad trap addr:<IPv4 **アドレス** >, community:< **コミュニティー名** >

コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定してください。

add_sess_IPv6:bad trap addr:<IPv6 **アドレス** >, community:< **コミュニティー名** >

コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [: :] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定してください。

add_sess_IPv4: community < **コミュニティー名** > already defined.

コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。

add_sess_IPv6: community < **コミュニティー名** > already defined.

コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。

adjust time server <NTP **サーバー** > offset:XX sec.

ncsdがNTPサーバーとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。
NTP サーバー：NTP サーバー名
offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）

authenticating

サプリカントが、アクセスポイントとの認証処理（EAP または WPA）中です。

authentication mode mismatch

アクセスポイントの認証モードが、サプリカントが利用したいものと違います。サプリカントとアクセスポイントの認証モードを同じにしてください。

authenticated

サプリカントは認証されました。
認証が成功した場合は、常にこのメッセージが最後に表示されます。

btd is disabled.

セキュリティーモード設定で btd が無効に設定されている場合、btd 起動後に出力されます。この場合 Bluetooth 通信はできません。セキュリティーモード設定で btd を使用可にしてください。

child process exec error !（プロセス名）

ネットワーク関連のプロセス起動に失敗しました。電源を再投入しても回復しない場合は、サービス実施店に連絡してください。

cipher suite mismatch

アクセスポイントのユニキャスト / マルチキャスト暗号化スイート（TKIP/AES/WEP）が、サプリカントが利用したいものと違います。

client EAP method rejected

RADIUS サーバーが、サプリカントによって選択された EAP メソッドを拒絶しました。

Client password rejected

ユーザー名またはパスワードが正しくありません。ユーザー名とパスワードを確認してください。

Client TLS certificate rejected

クライアントの TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Connected DHCP Server （<DHCP サーバーアドレス >）.

DHCP サーバーからの IP アドレス取得に成功しました。

connecting

サプリカントが、アクセスポイントとの無線接続待ちです。

Connected DHCPv6 server <IPv6 アドレス >

接続した DHCPv6 サーバーは、<IPv6 アドレス > です。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続時にのみ表示されます。再接続時には表示されません。

connection from <IP アドレス >

ホスト <IP アドレス > よりログインされました。

Current Interface Speed : <Ethernet I/F 速度 >

現在の Ethernet I/F の速度です。（10Mbps、100Mbps、または 1Gbps）。

Current IP address (< 現在の IP アドレス >).

DHCP サーバーから取得した < 現在の IP アドレス > で動作します。

Duplicate IP=<IP アドレス >（from<MAC アドレス >）.

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

DHCP server not found.

DHCP サーバーが見つかりませんでした。ネットワーク上に DHCP サーバーが起動していることを確認してください。

DHCPv6 server not found.

DHCPv6 サーバーが見つかりません。ネットワーク上に DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続失敗時にのみ表示されます。接続に失敗したときは 5 分ごとに DHCPv6 サーバーに接続を試みますが、再び接続に失敗したときには表示されません。

DHCP lease time expired.

DHCP リース切れになりました。現在使用している IP アドレスは使用できません。IP アドレスを再取得してください。

disconnected

サプリカントは接続されていない状態です。

exiting

lpd のサービスを終了しプロセスを EXIT しています。

httpd start.

httpd が起動しました。

IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.

WPA をサポートしていない拡張無線 LAN ボードが装着されています。WPA 対応の拡張無線 LAN ボードを装着してください。

IEEE 802.11 Card Firmware REV.< バージョン >

拡張無線 LAN ボードファームウェアのバージョンです。

IEEE 802.11 current channel < チャンネル番号 >

アドホックおよびインフラストラクチャモードでの無線 LAN 接続先変更時に表示される、現在動作中のチャンネル番号です。

IEEE 802.11 MAC Address = <MAC アドレス >

拡張無線 LAN ボードの MAC アドレスです。

IEEE 802.11 SSID <ssid>（AP MAC Address <MAC アドレス >)

インフラストラクチャモード時の接続したアクセスポイントの SSID およびアクセスポイントの MAC アドレスです。

IEEE 802.11 < 通信モード > mode

IEEE 802.11 の通信モードを表示します。

(IKE phase-1) mismatched authentication type : local=< 相手認証方式 1> remote ＝ < 相手認証方式 2>

IKE フェイズ 1 における本機の ＜ 相手認証方式 1＞ と通信相手の ＜ 相手認証方式 2＞ が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched encryption type : local=< 暗号アルゴリズム 1> remote ＝ < 暗号アルゴリズム 2>

IKE フェズ 1 における本機の < 暗号アルゴリズム 1> と通信相手の < 暗号アルゴリズム 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched DH group : local=<DH グループ番号 1> remote ＝ <DH グループ番号 2>

IKE フェズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ <DH グループ番号 1> と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ <DH グループ番号 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched hash type : local=< ハッシュアルゴリズム 1> remote ＝ < ハッシュアルゴリズム 2>

IKE フェズ 1 における本機の ISAKMP SA< ハッシュアルゴリズム 1> と通信相手の ISAKMP SA< ハッシュアルゴリズム 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。

IKE[%s] is disable, set PSK text.

PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリーを無効としました。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface（インターフェース名）：Duplicate IP Address（<IP アドレス >）.

本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。

<inferface name> card removed

サプリカントによって管理されている拡張無線 LAN ボードが取り除かれました。

<inferface name> interface down

サプリカントに管理されているインターフェースが無効です。

<inferface name> interface up

サプリカントに管理されているインターフェースが有効です。

<Interface> started with IP: <IP アドレス >

インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。

<Interface>: Subnet overlap.

<Interface> に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、他のインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

job canceled. jobid=< ジョブ ID>.

エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

IPP job canceled. jobid=%d.

エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

IPP cancel -job : permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザー名による認証に失敗しました。

LeaseTime=< **リース時間** >(sec), RenewTime=< **更新間隔** >(sec).

DHCP サーバーから取得したリソースのリース時間は ＜ リース時間 ＞ 秒、更新時間は ＜ 更新間隔 ＞ 秒です。

LEAP challenge to access point failed

アクセスポイントへの LEAP チャレンジが失敗しました。

Manual[%s] is disable, set authentication key.

認証鍵がされていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。

Manual[%s] is disable, set encryption key.

暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。

Memory allocate error.

メモリの取得に失敗しました。USB ケーブルの抜き差しを行ってください。

MIC failure TKIP counter measures started

TKIP を用いているサプリカントが、60 秒以内に 2 カ所のデータ改ざんを見つけ、その対策を開始しました。

MIC failure TKIP counter measures stopped

TKIP を用いているサプリカントが、データ改ざんが見つかり対策を開始して 60 秒たち、その対策を止めました。

Name registration failed. name=<NetBIOS **名** >

＜NetBIOS 名 ＞ の名前登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

Name registration success in Broadcast name =<NetBIOS **名** >

ブロードキャストによる ＜NetBIOS 名 ＞ の名前登録に成功しました。

Name registration success. WINS Server=<WINS **サーバーアドレス** > NetBIOS Name=<NetBIOS **名** >

＜WINS サーバーアドレス ＞ への ＜NetBIOS 名 ＞ の名前登録が成功しました。

nbtd start.

nbtd（NetBIOS over TCP/IP Daemon) を起動しました。

no RADIUS/authentication server

サプリカントが、利用可能な RADIUS サーバーがないというメッセージを受信しました。

no smart card detected on device

PEAP/GTC（Generic Token Card）が選択されましたが、GTC 認証でスマートカードが見つかりませんでした。

no WPA information element in probe response,rescanning

希望している SSID があるアクセスポイントからの Probe Response には、WPA の情報要素がありませんでした。サプリカントは、再スキャンしています。

papd start. (AppleTalk)

papd（Printer Access Protocol Daemon）を起動しました。

permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザー名やホストアドレスによるチェックで権限なしと判定されました。(root 権限を除く)

print sessions full

接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。

restarted.

LPD が開始しました。

server certificate invalid

サプリカントが、サーバー証明書が無効であることを検知しました。

server identity invalid

サプリカントが、指定されたサーバー名が無効であることを検知しました。

server not trusted

RADIUS サーバーは信用できません。

session_IPv4 < **コミュニティー名** > not defined.

認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。

session_IPv6 < **コミュニティー名** > not defined.

認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。

shutdown signal received. network service rebooting...

ネットワークのリブート処理を行います。

smbd start. (NetBIOS)

smbd（Server Message Block Daemon）が起動しました。

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名とネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. [**応答コード**] **(インフォメーション)**

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

Snmpd Start.

snmpd を起動しました（電源 ON のみ表示します）。

started.

BMLinkD が起動しました。

started.

ダイレクトプリントサービスを開始しました。

started.

IKE サービスが起動しました。

Started.

Rendezvous 機能が起動しました。

stopped

サプリカントが停止しています。

success key received

サプリカントが EAP-Success キーを受け取りました。

success but invalid key

サプリカントは EAP 認証が成功したというメッセージを受け取ったが、EAPOL キーが無効です。

supplicant unbound

サプリカントが起動しましたが、アクセスポイントには接続されていません。

supplicant started

サプリカントが起動しました。

terminated.

手動 SA および IKE の設定がひとつも存在しないため、IKE サービスが停止しました。

terminate.

Rendezvous 機能が終了しました。

There is problem in dhcp server operation.

複数の DHCP サーバーを設置している場合は、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバー間で矛盾がないかを確認してください。

too many pictures.

一回の印刷で指定する画像数が多すぎるため、正常に印刷できませんでした。指定画像数を減らして印刷してください。

trap account is unavailable.

v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。

unauthenticated

認証に失敗しました。サプリカントが、アクセスポイントから拒絶されたか、認証されていない状態です。

usbd is disabled.

セキュリティーモード設定により usbd が無効に設定されている場合に、usbd 起動後に出力されます。この場合、PnP および印刷はできません。セキュリティーモード設定で、usbd を有効にしてください。

waiting for keys

サプリカントがセッションキーを待っています。

Updated **（オプション名）（値）**via DHCPv6 Server

DHCPv6 サーバーから取得したパラメーターが更新されました。本メッセージは、パラメーター新規取得時と以前取得したものに対して変更があったときに表示されます。

WINS name registration : No response to server **（WINS サーバーアドレス）**

登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスに誤りがないか確認してください。または、WINS サーバーが正常に動作しているか確認してください。

WINS wrong scopeID = < **スコープ** ID>

不正なスコープIDが使用されています。正常なスコープIDを設定してください。

WSD (Device) started

WS-Device（WSD（Device））が起動しました。

WSD (Printer) started.

WS-Printer（WSD（Printer））が起動しました。

5. 付録

Windows ネットワークプリンターを設定する

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ここではWindows XP を例に説明します。

重要

- プリンターのプロパティを変更するには、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。
2. 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。
3. ［共有］タブをクリックし、［このプリンタを共有する］を選択します。
4. プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、［追加ドライバ］をクリックしてインストールする OS を選択し、［OK］をクリックします。

   プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックをして代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。
5. ［詳細設定］タブの［標準の設定］ボタンから、クライアントに配布するドライバの初期値を設定し、［OK］をクリックします。
6. ［OK］をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

Windows ターミナルサービス／ Citrix Presentation Server ／ Citrix Xen App を使うとき

詳細については、以下のカシオ計算機のホームページを参照してください。

♦ **対応状況について**
http://casio.jp/ppr/

DHCP を使う

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 および Unix に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、P.73 「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- WINS サーバーを使用する場合は、P.176 「WINS サーバーを使う」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

AutoNet 機能を使う

5

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。

補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、P.73 「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。

WINS サーバーを使う

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Service）サーバーに登録することができます。
ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。
サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。
WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。
WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。
登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使う

1. Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。
   ログイン方法については、P.108 「管理者モードにアクセスする」を参照してください。
2. メニューエリアの［設定］をクリックし、「ネットワーク」カテゴリーの中の［IPv4］をクリックします。
3. ［イーサネット+無線 LAN］欄の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリー WINS サーバー］と［セカンダリー WINS サーバー］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。
4. ［OK］をクリックします。
5. 管理者モードからログアウトし、Web Image Monitor を終了します。

ダイナミック DNS 機能を使う

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

重要

- メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。

♦ 静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、無線 LAN の場合
  RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）
  ただし、ホスト名が CNAME と同じ（RNPXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

♦ DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、無線 LAN の場合
  RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

♦ IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

補足

- ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。
- 本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。
  - セキュリティー設定がされていない
  - セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

5

動作対象の DNS サーバー

◆ 静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCPv4 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCPv4 サーバー

本機の代理で A レコードおよび PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続しているとき

ネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき

拡張無線 LAN ボードを使ってネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

♦ ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

・本機とアクセスポイントを近づける。
・アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
・アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

補足

・アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat

本製品に搭載しているコントローラなどのソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

・expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

補足

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。
  http://expat.sourceforge.net/

NetBSD

[I] Copyright Notice of NetBSD
For all users to use this product: This product contains NetBSD operating system:
For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.
The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.
A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

[II] Authors Name List
All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.
The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:
This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by the NetBSD Foundation.
This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
This product includes software developed for the NetBSD Project. See http://www.netbsd.org/ for information about NetBSD.
This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.

This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.
This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.
This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)
This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)
This product includes software designed by William Allen Simpson.
This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.
This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.
This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross
This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.
This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch
This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.
This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.
This product includes software developed by Mika Kortelainen
This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.
This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.
This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.
This product includes software developed by Adam Glass.
This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.
This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Projet.
This product includes software developed by Alex Zepeda.
This product includes software developed by Alistair G. Crooks.
This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.
This product includes software developed by Allen Briggs
This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by Bill Paul.
This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)
This product includes software developed by Boris Popov.
This product includes software developed by Brad Pepers
This product includes software developed by Bradley A. Grantham.
This product includes software developed by Brini.
This product includes software developed by Causality Limited.
This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.
This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.
This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by Charles D. Cranor.
This product includes software developed by Charles Hannum.

This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
This product includes software developed by Charles M. Hannum.
This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.
This product includes software developed by Christian E. Hopps.
This product includes software developed by Christian Limpach
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.
This product includes software developed by Christos Zoulas.
This product includes software developed by Chuck Silvers.
This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Colin Wood.
This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited
This product includes software developed by Daishi Kato
This product includes software developed by Dale Rahn.
This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.
This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Darrin B. Jewell
This product includes software developed by David Miller.
This product includes software developed by Dean Huxley.
This product includes software developed by Eduardo Horvath.
This product includes software developed by Eric S. Hvozda.
This product includes software developed by Eric S. Raymond
This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)
This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)
This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)
This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.
This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.
This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.
This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.
This product includes software developed by Ezra Story.
This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Gardner Buchanan.
This product includes software developed by Gary Thomas.
This product includes software developed by Gordon Ross
This product includes software developed by Gordon W. Ross
This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.
This product includes software developed by Harvard University and its contributors.
This product includes software developed by Harvard University.
This product includes software developed by Herb Peyerl.
This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Iain Hibbert

This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.
This product includes software developed by Ian W. Dall.
This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.
This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.
This product includes software developed by James R. Maynard III.
This product includes software developed by Jared D. McNeill.
This product includes software developed by Jason L. Wright
This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, http://www.and.com/
This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.
This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.
This product includes software developed by Joerg Wunsch
This product includes software developed by John Birrell.
This product includes software developed by John P. Wittkoski.
This product includes software developed by John Polstra.
This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Jonathan Stone.
This product includes software developed by Jukka Marin.
This product includes software developed by Julian Highfield.
This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.
This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.
This product includes software developed by Kenneth Stailey.
This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.
This product includes software developed by Klaus Burkert,by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.
This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Leo Weppelman.
This product includes software developed by Lloyd Parkes.
This product includes software developed by Luke Mewburn.
This product includes software developed by Lutz Vieweg.
This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.
This product includes software developed by Manuel Bouyer.
This product includes software developed by Marc Horowitz.
This product includes software developed by Marcus Comstedt.
This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.
This product includes software developed by Mark Brinicombe.
This product includes software developed by Mark Murray
This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe
This product includes software developed by Markus Wild.
This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.
This product includes software developed by Masanobu Saitoh.
This product includes software developed by Masaru Oki.

This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.
This product includes software developed by Mats O Jansson.
This product includes software developed by Matt DeBergalis
This product includes software developed by Matthew Fredette.
This product includes software developed by Matthias Pfaller.
This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Michael Graff.
This product includes software developed by Michael L. Hitch.
This product includes software developed by Michael Shalayeff.
This product includes software developed by Michael Smith.
This product includes software developed by Mike Glover and contributors.
This product includes software developed by Mike Pritchard.
This product includes software developed by Minoura Makoto.
This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.
This product includes software developed by Niels Provos.
This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.
This product includes software developed by Niklas Hallqvist.
This product includes software developed by Onno van der Linden.
This product includes software developed by Paul Kranenburg.
This product includes software developed by Paul Mackerras.
This product includes software developed by Per Fogelstrom
This product includes software developed by Peter Galbavy.
This product includes software developed by Phase One, Inc.
This product includes software developed by Philip A. Nelson.
This product includes software developed by Philip L. Budne.
This product includes software developed by RiscBSD.
This product includes software developed by Roar Thronaes.
This product includes software developed by Rodney W. Grimes.
This product includes software developed by Roger Hardiman
This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.
This product includes software developed by Rolf Grossmann.
This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Ross Harvey.
This product includes software developed by Scott Bartram.
This product includes software developed by Scott Stevens.
This product includes software developed by Shingo WATANABE.
This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.
This product includes software developed by Soren S. Jorvang.
This product includes software developed by Stephan Thesing.
This product includes software developed by Steve Woodford.
This product includes software developed by Takashi Hamada
This product includes software developed by Takumi Nakamura.
This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Terrence R. Lambert.
This product includes software developed by Tetsuya Isaki.

This product includes software developed by Thomas Gerner
This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Tobias Weingartner.
This product includes software developed by Todd C. Miller.
This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.
This product includes software developed by TooLs GmbH.
This product includes software developed by Toru Nishimura.
This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.
This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.
This product includes software developed by Waldi Ravens.
This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. http://www.zembu.com/
This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.
This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.
This product includes software developed by Yasushi Yamasaki
This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.
This product includes software developed by the Alice Group.
This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.
This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.
This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.
This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.
This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.OpenSSL.org/)
This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.
This product includes software developed by the RiscBSD kernel team
This product includes software developed by the RiscBSD team.
This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.
This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
This product includes software developed for the FreeBSD project
This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas
This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden
This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.
This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden
This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.
This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET,Swedish University Computer Network.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.
This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.
This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.
This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz,TeleMuse.
This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.
"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).
This software includes software developed by the Computer Systems Labora-tory at the University of Utah.
This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/).
This product includes software developed by Allen Briggs.
In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:
This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.
"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD" , "FreeBSD" , "Mach" (by CMU).
In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:
This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

FreeBSD 4.6.2/netipx

Sablotron (Version 0.82)

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, "Sablotron 0.82"), with modifications made by the product manufacturer.

The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, "MPL 1.1"), and the application software of this product constitutes the "Larger Work" as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at:
http:// supportdownload. com/services/device/sablot/notice082.html

e) The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com

f) MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

JPEG LIBRARY

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

SASL

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE® cryptographic or security protocol software from RSA Security Inc.
- RSA is a registered trademark and BSAFE is a registered trademark of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
-

Open SSL

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact opensslcore@ openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN 11NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay®cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay®cryptsoft.com) All rights reserved.
This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay®cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay®cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e this code cannot simply be copied and put under another distribution licence ［including the GNU Public Licence.］

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

<Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".
The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY
BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)
The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh -source code
Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.
All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.
<Ariel Futoransky futo@core-sdi.com>
<http://www.core-sdi.com>

3)
One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.
Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)
Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl
Theo de Raadt
Niels Provos
Dug Song
Kevin Steves
Daniel Kouril
Wesley Griffin
Per Allansson
Jason Downs
Solar Designer
Todd C. Miller
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)
Portable OpenSSH contains the following additional licenses:
c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller
Theo de Raadt
Damien Miller
Eric P. Allman
The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open LDAP

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.
The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,

2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and

3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
The names of the authors and cöopyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

Heimdal

Copyright (c) 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

IPS™ print language emulations

AppleTalk

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of The University of Michigan not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. This software is supplied as is without expressed or implied warranties of any kind.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

WPA Supplicant

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and /or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name (s) of the above-listed copyright holder (s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

nana

ILU

racoon

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.
d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.
3. REQUIREMENTS
A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:
a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and
b) its license agreement:
i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;
ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;
iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and
iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.
When the Program is made available in source code form:
a) it must be made available under this Agreement; and
b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.
Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.
Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.
4. COMMERCIAL DISTRIBUTION
Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent(s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

Samba

For SMB transmission, this machine uses Samba (hereinafter referred to as Samba).
Copyright (c) Andrew Tridgell 1994-1998
This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.
This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USAEveryone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.
Preamble
The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.
When we speak of free software, we are referring to freedom, not price.
Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.
To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.
For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have.
You must make sure that they, too, receive or can get the source code.
And you must show them these terms so they know their rights.
We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.
Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.
Finally, any free program is threatened constantly by software patents.
We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION
0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language.(Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".
Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.
You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)
These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.
Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and a brief idea of what it does.Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:
Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.
signature of Ty Coon, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice
This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

商標

Adobe、Acrobat、Acrobat Reader、Adobe Reader、PostScript は、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。

Apple、AppleTalk、CUPS、Macintosh、Mac OS、および Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

Citrix®、Citrix Presentation Server、Citrix XenApp は、Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Firefox は、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

JAWS® は米国およびその他の国における Freedom Scientific BLV Group, LLC の登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Windows Vista®、Internet Explorer® は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Monotype は Monotype Imaging, Inc. の登録商標です。

NEC は、NEC Corporation の登録商標です。

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Solaris は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国々における登録商標です。

UPnP™ is a trademark of the UPnP Implementers Corporation.

- Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 2000 Professional
  Microsoft® Windows® 2000 Server
  Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
- Windows XP の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® XP Professional Edition
  Microsoft® Windows® XP Home Edition
  Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition
- Windows Vista の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Vista® Ultimate
  Microsoft® Windows Vista® Business
  Microsoft® Windows Vista® Home Premium
  Microsoft® Windows Vista® Home Basic
  Microsoft® Windows Vista® Enterprise
- Windows 7 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 7 Home Premium
  Microsoft® Windows® 7 Professional
  Microsoft® Windows® 7 Ultimate
  Microsoft® Windows® 7 Enterprise

- Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
- Windows Server 2008 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2008 Standard
  Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise
  Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™
  Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™
- Windows Server 2008 R2 の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard
  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise

その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

CASIO

お問い合わせ窓口

製品の修理・メンテナンスに関するお問い合わせ

修理の内容・方法・期間・費用など詳しくは下記までお問い合わせください。

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-033066**　携帯電話・PHS 等をご利用の場合　048-233-7243

製品の機能設定方法・ソフト障害に関するお問い合わせ

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-066044**　携帯電話・PHS 等をご利用の場合　048-233-7232

カシオテクノ株式会社　カスタマーコンタクトセンター
＜受付時間＞月曜日～土曜日　AM9:00～PM5:30（日･祝日･年末年始･夏期休暇等を除く）

消耗品やオプションのご購入に関するお問い合わせ

お買上の販売店および弊社営業所までお問い合わせください。

インターネット･インフォメーション

プリンタトップ　各種ドライバ類・製品情報などを提供しております。
http://casio.jp/ppr/

FAQ　お問い合わせの多いご質問と答えをホームページに掲載しておりますのでご活用ください。
http://casio.jp/support/ppr/faq/

カシオ計算機は環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。
本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

SPEEDIA V2500
使用説明書＜ソフトウェアガイド＞
2011年3月　第1版発行

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2
カシオ電子工業株式会社

M075-8534
T-1024P

SPEEDIA V2500 使用説明書＜ソフトウェアガイド＞
CASIO